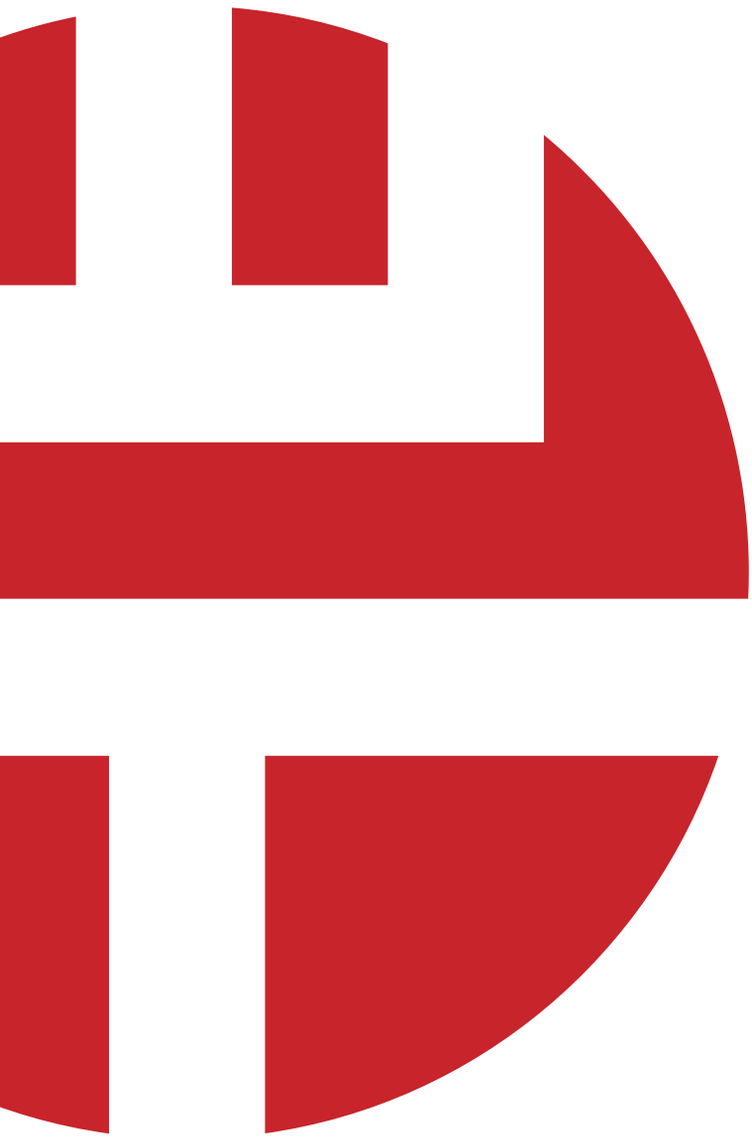


# Dignity 2.0

International Conference

2022

Dignity2.0 国際カンファレンス

# 目次


01　目次

02　Dignity2.0 国際カンファレンス 設立趣旨

04　代表あいさつ

05　発起人あいさつ -Dignity2.0 国際カンファレンス開催に寄せて -

08　2022 年度 開催概要

10　世界基軸教育とは　目次

- Dignity 2.0 - 自然・人類尊栄の基準点 -

- 未来へ羽ばたく私たちの両翼　世界基軸教育とは

26　関連書籍紹介

28　Dignity2.0 国際カンファレンス賛同者一覧

30　わたしたちについて

Dignity2.0を元にした新教育

# SAMURAI真髄を世界基軸教育に

私達は国家を超えて共有できる「世界基軸教育」を日本から全世界に提唱し、本当の心と尊厳を伝える知恵を共有、融合する場を希求しています.

## 設立趣旨

人工知能（Artificial Intelligence：AI）は第３世代 AI の中心である深層学習（Deep Learning）を超え、第４世代へ向かっています。この驚異的な進化は多くの利便性をもたらすと同時に、人間の肉体労働や知的労働を代替し始め、近い将来、大半の人間が無用者になると揶揄されるほど危機的な状況に追い込んでいます。そんな中での新型コロナウィルスの出現は、小さなウイルス１つさえも制圧できないという現代科学の限界を露呈し、世界共通の脅威となりました。健康被害のみならず、経済も瀕死状態に追い込み、心の健康も潰され、鬱や自殺、憤怒による暴力が蔓延するなど歯止めが効かない状態です。
これらの出現が、私たち人類に突き付けている究極の問い、それは『人間の尊厳とはなにか』ではないでしょうか。2045 年には科学技術の終焉を迎えると言われ、これまでの時代が幕を閉じようとする中、本格的に心時代の扉を開けて次なるステージに上がるためには、この問いへの答えは避けて通れません。

これまでの尊厳の概念、Dignity1.0 は「部分的な存在の尊厳」に留まり、その存在間の尊厳関係を追求しました。ですが人類最大の転換期を迎えた今、尊厳の概念も進化すべきだと考えます。わたしたちが提唱する Dignity2.0 は、部分的な存在を許さない「1 つだけがある世界（Non-duality）」をディファイン（規定）し「尊厳でないものはひとつもない」ことを共通土台として出発します。そして、データや情報、知識などすべてが尊厳であり、その尊厳を土台に意味や価値を生み出し、未来を描きます。

この Dignity2.0 を元にした新教育、国家を超えて共有できる「世界基軸教育」は時代の要請です。そして、ともに未来社会や人間のこれからの在り方を探求し、本当の心と尊厳を伝える知恵を共有、融合する場を希求しています。これまでのように国家間やイデオロギーで争うのではなく、ともに新たな未来を創造するためのビジョン同盟を組めるようにすることが真の教育の役割であり、それを担う場が必要なのです。
この教育を全世界に提唱し、普及するムーブメントとして、「Dignity2.0 国際カンファレンス」を実施します。これは、時代を牽引するリーダーの受け皿であり、哲学、スピリチュアル、物理学、数学、科学など、すべての学問を融合し、知を大統合する教育、技術を世界に普及するムーブメントであり、今までと次元が異なる新しい知識生産方式を共有するメタプラットフォームです。
この場では、多種多様な最先端分野で活躍する人が一堂に会し、各々の探求を共有し、心時代に必要な教育とは何かを考えます。また新たな教育を生み出し、心時代の職業、技術、商品、産業を創出します。

さらに、自由民主主義と共産主義のイデオロギー対決を尊厳民主主義で融合し、ポストコロナ時代の世界基軸教育による共同体の共生共栄の道を共有し、拡散することを目的とし、この趣旨の賛同者有志が運営する組織会議としても機能します。
2021 年 10 月、大阪での開催を皮切りに、世界の主要都市に「Dignity2.0 国際カンファレンス運営組織」を設置し、世界的な組織として活動の場を広げる予定です。運営は、大陸ごとにカンファレンスの進行グループを設けてシステムで分化し、「Dignity2.0 国際カンファレンス」を経営する準備委員会は、時代を代表する組織として創設します。また、各国のニーズに合わせた人・ジャンル・方法を選択して開催する予定です。

人類未経験の危機的な時代に、世界基軸教育で危機を希望に大反転させ、尊厳を土台にした持続的な進化・発展を可能にする世界の実現のために、「Dignity2.0 国際カンファレンス」をここに設立します。

# 代表あいさつ

皆さま、こんにちは。

2021 年 10 月 9 日～ 11 日に第 1 回 Dignity2.0 国際カンファレンスがグランフロント大阪で開催されました。オフライン・オンライン・メタバース開催で、世界 8 ヶ国のべ 3,500 人の方々にご参加頂きました。

お陰様で、今年は北海道ヒルトンニセコビレッジで開催の運びとなりましたこと、心から感謝申し上げます。

2050 年人類滅亡の危機とも言われておりますが、その背景には、

①気候変動による環境破壊の危機
② SDGs を掲げるも進展がみえない持続不可能な危機
③ AI 活用による尊厳破壊の危機
④貧富格差による共同体破壊の危機
⑤人間関係が築けないことによる少子高齢化の危機

があります。
これらの危機を解決できるイノベーションが必要です。

教育、経済、政治、文化芸術に対して、何をどのように変化させるべきかの「革新的価値」を提供するために研究していくのが『Dignity2.0 ムーブメント』です。

今年は日本の宝でもある、大自然そのもの、癒しのエネルギー溢れる北海道ニセコの地で、同じ思いを持った皆さまと共に、今ここを楽しみながら希望の未来を創ってまいりたいと思います。

令和 4 年 10 月 8 日

nClinic 院長　内科医師
Dignity 2.0 国際カンファレンス代表
令和教育財団　理事長

岩田 千佳

# 発起人あいさつ

**Dignity2.0 国際カンファレンス開催に寄せて**

この度は、Dignity2.0 国際カンファレンスを開催できますことを心から感謝致します。

2019 年天が開き、2020 年地が開き、2021 年人が開き、そして夜明けの晩、2022 年お母さんが開く女性性の時代到来の節目に、日本から世界へと向けた希望のメッセージ、明確なビジョン、美しい約束が発せられること、心より喜びを感じております。

兼ねてより日本が世界人類に果たす使命、ミッション、役割はとてつもなく大きなものだと感じておりました。世界の中でも異質な文化を持ち、その文化文明の美しさに感銘を受けておりましたが、実際に日本に来て、日本の絶望の涙に触れた時に、激しく慟哭したことを今でも覚えています。大和魂の目覚め、人類の目覚めのために呼吸すると決めたあの頃から今を思うと、とても感慨深いものがあります。

この日本の地で私が出会うことができた宇宙の根源とつながった Dignity2.0。それはまさしく、全ての人類が懇切に願った理想であり、全ての人が享受し、全ての人とともに歩む人類の本流となるべき道筋です。この日本が、絶望の底から立ち上がり、全世界へと恒久的な平和である令和の福音を奏でる 2022 年 10 月 8 日、9 日、10 日は正しく文明が後天開闢する歴史的現場です。

科学の進化に強く依存した現代の発展で、人間の心が取り残され、尊厳不在の教育、尊厳不在の経済、尊厳不在の政治、尊厳不在の文化芸術に終止符を打つ偉大な瞬間。

脳を土台にした決して辿り着くことのできない高さの成功を追い求める Dignity1.0 の文化文明を脱却し、出発もプロセスもゴールも尊厳である深さの成功を得た Dignity2.0 の文化文明が始まる。これほど嬉しいことはありません。

世界的にも日本が受けた戦争の涙、バブル経済の涙、大地震の涙、そして、世界的混乱の最中のオリンピックと、たくさんの艱難辛苦を超えて、真の女性性・尊厳に目覚めたこの日本から始まる勝負が、世界人類に与える希望のインパクトは計り知れません。

今回の Dignity2.0 国際カンファレンスの開催が、歴史的な 1 ページを飾ることを確信しています。宇宙自然、人類歴史の大いなる応援とともにこの場に希望と歓喜が溢れること、心から感謝申し上げます。

令和哲学者
Dignity2.0 国際カンファレンス発起人

Noh Jesu

Dignity2.0 は、部分的な存在を許さない「1 つだけがある世界（Non-duality）」を規定し、「尊厳でないものはひとつもない」ことを共通土台として出発します。

**2050 年人類滅亡の危機が叫ばれる背景に**
**以下の 5 つの危機を解決できるイノベーションが必要です。**
**わたしたちは教育、経済、政治、文化芸術に対して、何をどのように変化させるべきかの「革新的価値」を提供するために追求し研究をしています。**

**気候変動をはじめとする環境破壊の危機**

**SDGsを掲げるも進展がみえない持続不可能な危機**

**AI活用による尊厳破壊の危機**

**貧富格差による共同体破壊の危機**

**人間関係が築けないことによる少子高齢化の危機**

”
物質文明、脳の時代（男性性時代）から尊厳文明、心の時代（女性性時代）に移動させる多様なジャンルの革新的挑戦と新しいジャンルの胎動を地球市民に報告する文明大転換の歴史の舞台を提供するのが「Dignity2.0 国際カンファレンス」です。

# Hokkaido 2022 Niseko

2022

# 2022年度 開催概要

世界基軸教育の新しい基準点から、新しい一歩、新しい産業が創出される「シン（心・新しい）未来」へ向かいます。
人間一人ひとりが持つ最高の尊厳機能を活かし、一人ひとりが所有しているPU（personal・universe/私の宇宙）を活用できる技術、職業、ビジョンを共有していきます。

**日程**

**2022 年 10 月 8 日 ( 土 ) ～ 10 日 ( 月 )**

**1日目：10:30～21:00**
**2日目：9:30～21:00**
**3日目：9:30～20:00**
オフライン、オンライン同時開催

**会場**

**ヒルトンニセコビレッジ**
**〒 048-1592 北海道虻田郡ニセコ町東山温泉**

**HP**

**https://www.dignity2.org/2022/**
2022年度HPでは、出演者情報＆イベント詳細をご案内中

EVENT STYLE

**国内外から グローバルリーダー集結**

**43 枠のイベント開催**

**100 名以上の個性的な 出演者・登壇者**

[発表型] 表彰・カンファレンス・スピーチ・プレゼンテーション・上映
[体験型] ワークショップ・体験学習・理論実践・セミナー
[参加型] ディスカッション・トークセッション・討論・議論・メタバース

# プログラム

**「6 つのチャレンジテーマ：教育・経済・政治・文化芸術・健康・ライフスタイル」を通して、個人・団体・企業が " これまで " と " これから " を議論する場を提供していきます。**

CHALLENGE THEME

### 教育 -EDUCATION-

これまでのように国家間やイデオロギーで争うのではなく、ともに新たな未来を創造するためのビジョン同盟を組めるようにすることが真の教育の役割であり、それを担う場が必要なのです。ここでは、「教育の BiG SHiFT」を追求していく。

### 経済 -ECONOMY-

Made In Japan で世界トップになる勢いだった日本経済も、モノづくりの次を生み出せず今は末期状態だ。今ここすべてをゼロ化した白紙の状態から無限のアイデア・クリエイティヴを爆発させるシン（心）インフラづくりがスタンダードになる。

### 政治 -POLITICS-

人が結集するだけでは社会構造改革は成し得ない。生産性をあげるには革新的なアイデアが必要だが、ばらばらな観点の問題はアイデアやクリエイティブも枯渇させてしまう。認識構造の問題が基軸教育により解決すれば社会構造の問題解決が待っている。

### 文化芸術 -CULTURE & ART-

Dignity2.0 の提案は部分的な存在を許さない「1 つだけがある世界」を共通土台にしている。自分と無関係かつ無関心な世界もすべてが美しくみられるのが Dignity2.0 の状態だと規定する。その感性がもたらす地球市民の興す文化・芸術、さらに究極の平和・愛・尊厳・幸せ・勝利を追求していく。

### 健康 -HEALTH-

地球が自転・公転しなければ生命活動がとまってしまうように、独立した身体は存在しえない。存在や身体という「結果」を「原因」にして生きれば、真の原因も過程も分からず、状況統制が不可能である。自分の体の健康にとどまらず、時間空間存在エネルギーが美しいハーモニーとなることを追求する。

### ライフスタイル -LIFESTYLE-

人間の考え感情も AI が模倣するようになり、その進化は人間の予測すらできない領域に突入するだろう。多様性・多元性にあふれた複雑な観点が飛び交い情報過多で整理ができず基準点や方向性を喪失し問題が山積みになる。Dignity2.0 によるこれからのライフスタイルを追求する。

# 2022年度 北海道実行員会

**花輪　稚佳子　| Hanawa　Chikako**
**共同実行委員長**

社会問題が溢れる現代において、今私たちがすべきことは"心の教育"で世界を変革していくことであると確信しております。それを全世界に発信する舞台がDignity2.0国際カンファレンスです。海外からも注目されている北海道ニセコの地で開催できることを大変嬉しく思っております。歓喜溢れる 3 日間をみなさんと共につくっていけたら幸いです。

**原田　卓　| Harada Suguru**
**共同実行委員長**

北海道の10月は気持ちのいい季節です。寒い冬を迎える前の凛とした空気と生命の実りをニセコの大自然の中で感じながら、最先端の教育技術が発表される最高のシチュエーションです。各ジャンルのスペシャリストとパイオニアが集い、日本で誕生した世界基軸教育を北海道から世界へ発信する。未来の希望を確信する3日間をお約束します!

**植松　努　| Uematsu Tsutomu**
**顧問**

新しい未来に踏み込むときに大切なことは、過去に基づく知識からではなく、ゼロから全く新しい発想をすることです。北海道の広大な大地でゆったりとした気分で、このカンファレンスを楽しんでいただけたらと思います。当日はぜひ一緒に尊厳のロケットを飛ばしましょう!

# 世界基軸教育とは


**Dignity 2.0 -自然・人類尊栄の基準点- p.11**

**未来へ羽ばたく私たちの両翼 p.12**

## 1.尊栄の基準軸NR Thinking Method p.13

**尊厳に接続した個性の完成**
- NR Thinking Method の第 1 ステップ
- NR Thinking Method の第 2 ステップ
- NR Thinking Method の第 3 ステップ

**精神細胞の広がり、共同体の創造**
- NR Thinking Method の第 4 ステップ
- NR Thinking Method の第 5 ステップ
- NR Thinking Method の第 6 ステップ

## 2.世界基軸教育 p.14

**脳を基準点にした認識構造の問題点**
- モチベーション（やる気）の問題
- 意思決定の問題
- 状況統制不可能の問題

**新発見「源泉動き」とは何か**
- 数学的アプローチ
- 物理学的アプローチ
- 哲学的アプローチ
- 歴史的アプローチ
- 宗教的アプローチ
- 美学（新感覚的）アプローチ
- 言語学的アプローチ

**新発見が可能にする問題解決**
- モチベーション（やる気）の問題解決
- 意思決定の問題解決
- 状況統制不可能の問題解決
- 結集・団結の問題解決
- 生産・イノベーション（革新）の問題解決

**少子高齢化を解決できる教育革命の夢（Off-line教育革命）**

**次世代SNS3.0アプリ「Diglink-ディグリン-」(On-line教育革命)**

**認識経済・英雄産業**

## 3.英雄産業とは p.21

**英雄産業とは何か**
- 1）英雄産業の要はものの観方の革命（認識革命）
- 2）ものの観方の 11 段階
- 1 段階：目でみる
- 2 段階：XYZ 軸でみる（ニュートン・デカルト）
- 3 段階：光の速度でみる（アインシュタイン）
- 4 段階：エネルギー・量子場でみる（量子力学）
- 5 段階：5 タイプのヒモの振動パターンでみる（ヒモ理論）
- 6 段階：1 タイプの膜の振動パターン・真空エネルギーでみる（M 理論）
- 7 段階：名前をつけられる心でみる（識無辺処）
- 8 段階：名前をつけられない心（無所有処）
- 9 段階：心の動きそのものがイメージできる心（非想非非想処）
- 1 0 段階：心の動きそのものがイメージできない心（滅尽定）
- 1 1 段階：令和感覚でみる（nTech）

**3）英雄産業の特徴**
- ①完全集団創建産業
- ②世界的雇用危機を解決するメタ素材産業
- ③持続可能な平和産業
- ④心路を開発開拓する産業
- ⑤究極の結集と生産
- ⑥3 つのコロナを解決するオールクリーン戦略

**両翼を得た人類に求められる地球市民としての歩み**
- 突入する Hyper Reality 社会
- Hyper Reality から Deep Reality へ
- 尊厳を活用する真のデジタル化こそ日本の使命
- パーソナル・ユニバース、そしてモルティングバースの時代へ

# 世界基軸教育とは
# Dignity 2.0 -自然・人類尊栄の基準点-

人類のこれまでの歩みは、尊厳溢れる文化の胎動を希求する痛みを伴い続けた歴史である。宇宙自然と人類の対峙の中で生み出した沢山の知恵と叡智、そして、いつしか人類は人類同士で摩擦衝突を繰り返し、歴史の中心編者による文明の小説、虚構の中を生きてきた。誰一人同じ世界・同じ宇宙を共有できないという人間機能の限界を明確に超える術を持てずに歩んできたこれまでの人類の道のりを経てなお、未だに戦争の歴史の輪から解放され得ないでいる。

人類歴史の中で、移動手段、通信手段、接続手段と凄まじいほどの科学的知識・技術の進化発展とは裏腹に、強烈な人類尊厳の危機を生み出している。情報社会による情報の大洪水により、人間の五感覚脳の機能に裏打ちされたこの身体が自分という人間観、そして、この目に映る世界が一つの物理的宇宙空間であるという宇宙観の固定に、いよいよ臨界点を迎え、コロナによるパンデミックによって誘発された、現代人、現代社会、地球文明の叫びは、新たな自然・人類尊栄の基準点の明示を何よりも懇切に訴えている。

この強烈な危機の歴史的転換点を前に、我々は人類の認識機能のアップグレードによる尊厳文明の胎動を約束する。人権を叫び開闢したこの産業社会、資本主義社会の希望と限界の涙を受け継ぎ、明明白白な尊厳溢れる人間、尊厳溢れる関係、尊厳溢れる社会、尊厳溢れる時代、尊厳溢れる未来を創出する。二度と傷つけ合うことのない、優しさが満ち溢れる人類文化文明の形成の起点となる絶対尊厳・Dignity2.0。いかなる叡智を持ってしても人類が規定することができなかった出発点自体が尊厳であるDignity2.0 の規定の歴史的成功による歓喜、感動を享受したい。

人種、国家、宗教、性別と、あらゆる脳が現出させる境界線を超えて、今ここの現代に共にある人類としての使命と誉れと責任とプライドを分かち合い、共に尊栄の基準点を具現化する地球市民であることを確認し、希望の未来を確かなものとするために、ここに日本より生まれた世界基軸教育について記す。

# 世界基軸教育とは
# 未来へ羽ばたく私たちの両翼

**2020年、日本がおもてなしの精神で招致した東京オリンピックでは盛大な平和の祭典が行われるはずでしたが、とても小さなウイルスが世界を瞬く間に大混乱に陥れました。新型コロナウイルスによるパンデミックです。世界の混乱を前に、国家をこえた世界的リーダーシップが求められる最中、イデオロギーの争いが垣間見え、混乱が混乱をよび迷走を極めました。改めて、地球文明を地球市民として考える姿勢を現代に生きる一人ひとりに懇切に訴えた出来事でした。**

**日本は、あらゆる逆境を超え、史上初の延期開催、ほぼ無観客での開催という歴史的な2021年の夏を終えました。パラリンピックの開会式のテーマ「WE HAVE WINGS」の演出では、片翼を持つ車いすの少女が主人公の物語が展開されました。私たちには、目に見える翼と、そして、“目には見えない翼”があります。**
**その両翼を持って羽ばたくタイミングこそが、今ここ、この日本からだと確信しています。**

## 今人類に不可欠な”目に見えない翼”とは

目に見える翼は、脳が見せる高さの成功の生き方「Dignity 1.0( 男性性 )」であり、目に見えない翼は、心で観る深さの成功の生き方「Dignity2.0( 女性性 )」です。

私たちは当然のように、目に見える世界、耳で聞こえる世界というこの現実を舞台に、いろんな思考や経験を巡らせて、今日の発展の土台としています。数学、物理学と学術の発展とともに、科学的知識、技術が可能にした現代の便利な生活、営みは、原始の頃の人類の文明から考えると途方も無い知恵と努力の結晶であることに間違いはありません。それでも終わらない人類同士の争いや、世界的混乱の元凶がどこにあるのでしょうか。

目に見えない領域を扱う哲学でさえ、人間は部分観で、この現実は虚構であり、結局は、個人の自由や多様性を認める形に留まり、人類尊栄の基準点を明示できずにいます。深さの成功をどのように始めるのでしょうか。その答えこそが、すべての人たちと分かち合いたい出発点自体が尊厳である Dignity2.0 です。1996 年、この日本の福岡の地で Noh Jesu が発見した尊栄の基準点。そして、その基準点を誰もが共有可能にすべく、苦節 26 年の歳月を経て開発に成功したのが尊栄の基準軸となる NR Thinking Method、世界基軸教育です。Dignity2.0 国際カンファレンスを世界中で開催し、脳が現出させるあらゆる境界線を土台にした戦争の輪・争いの輪から解放し、尊厳から溢れる協調世界が一刻も早く広がることを願ってやみません。

そこで、理想の時代、理想の文明、国境を越えた One World の地球へと向かう尊栄の基準軸、そして、そこに広がる私たちの共栄の Vision・約束を共有したいと思います。

# 1 . 尊栄の基準軸 NR Thinking Method

**私たち現代人が活用している基準点とはなんでしょうか。それは脳です。私たちは当然のように脳が見せるこの現実を土台に思考論理展開しています。そして、学術を発展させ、テクノロジーの進化を土台に現代の文明が成り立っています。しかし、脳が現出させる世界を起点に物事の理を知り、理解することの限界が訪れています。それは新型コロナウイルスによる文明の破壊と、人間代行者である AI の誕生による人間の尊厳の破壊に如実に現れています。脳を基準点にしている限り、本物の幸せ、本物の成功、本物の感動は絶対にあり得えません。しかし、現代人、現代理性はこの脳が現出させる脱出不可能なゲームの中、虚構の中、現実の中にいて、たくさんの悲劇を生み出しています。**

**人類が誕生し、700 万年の歴史を経て、無用者となるのが人類の運命だったのでしょうか。今、人類は大きな選択に迫られています。それは、これまでの曖昧な脳を基準点とした尊厳をゴールにだけ設定した文明の進化か、それともスタート（出発点）自体が尊厳で、かつプロセスもゴールも尊厳である Dignity2.0 から始まる文明の進化かの選択です。**

**ここからはまず Dignity2.0 を起点にした変化のプロセスである NR Thinking Method について共有します。NR Thinking Method は 1 ～ 3 の 3 つのステップで個性の完成を、そしてさらに 4 ～ 6 の 3 ステップで共同体の創造を案内します。**

## 尊厳に接続した個性の完成

まず、尊厳溢れる個性完成の 3 つのステップには、人類普遍の Mission、Vision、Value の理解の段階があります。それぞれは、究極の絶望、究極の希望、そして究極の絶対ルールとも呼びます。私たちは、知らない間に生まれ、周りや常識、文化に合わせ生きていく中で、根源的な問い・本質的な問いを時折感じつつも追究を後回しにし、目先の生活に忙しい奥行のない生き方になってしまっています。「人間であること」「存在であること」「宇宙があること」またその生滅や躍動、バイタリティを理解しようとすることや活用することを放棄し、文字通り表だけに見える世界に翻弄された、裏切り人生を歩んでいます。そのような普遍的根源的理解を有耶無耶にしながら歩んできた人類は、共通の土台を持つことができず、各々の経験や歴史観によって、それぞれの正しさ、それぞれの正義の主張により争いの絶えない文明を歩んできました。

### NR Thinking Methodの第 1 ステップ

第 1 ステップは、何よりも今ここが究極の絶望であるということの理解。「1 分 1 秒も誰とも画面を共有できない」という言葉が言い表す絶望の深さをイメージできるか。これを当然のように感じ、当然のように諦め、当然のように生きていくことを選択し続けている限り、本当の意味で、人類が協調関係を結ぶことも、共同出発を発露させることもできない。私たちは一体どんな問題を解決しなければならないのか。そして、それが個人個人やある国家の課題ではなく、普遍的人類の共通の課題であるのならば、その点においても人類は共同の歩みをスタートすることができる。究極の絶望とは何か。それは今ここ脳が現出させる脱出不可能なゲームの中にいて、1 分 1 秒も誰とも画面を共有できないということである。

### NR Thinking Methodの第2ステップ

第 2 ステップは、人類がこれまで超えることができなかった究極の絶望を克服できる知恵、すなわち脱出不可能なゲームを脱出可能なゲームへと変化させることのできる究極の希望・「源泉動き」の発見。（※源泉動きについての詳細は、後述）人間一人ひとりに新たな生産手段を持たせ、尊厳に裏打ちされた全く新しい情報知識生産プラットフォームを提供すること。人間は、これまで肉体労働、知的労働と、労働を代替する道具を開発しながら新たな労働生産を開拓し、人間にしかない存在意義を高めてきた。しかし、機械化、電子化、自動化、人工知能化していく中で、人間の労働生産性は開発してきた道具以下となり、雇用蒸発、通貨蒸発の強烈な教育と経済の課題が露呈している。人間が新たな生産手段を獲得することで拓く、真の人間の尊厳性と、居場所と、活動は、究極的な安心と創造性を開闢させる。

### NR Thinking Methodの第3ステップ

第 3 ステップは、究極の絶対ルール。自らの思考・感情・言葉・行動・関係を統制・創造できるルール。人間は、脳を基準点として初期設定されている状態で、経験を元に無意識のエンジン（束縛・カルマ）を構築する。そのエンジンの機械的条件反射から脱し、All Zero 化した境地になることで、常に今ここ新しい宇宙を創造・経営・運営できる立法理性・定言命法の活用が可能になる。人間は 1 日 6 万の思考をしていると言われているが、その思考のうち、一体どれだけ自分の幸せ・成功・豊かさ、さらには人類の幸せ・成功・豊かさが溢れる、考えや感情が生産できているだろうか。人類普遍の究極の絶望、希望、ルールを理解し、自らの宇宙を統制するパーソナル・ユニバース(PU) の経営者になってこそ、ようやく個性の完成といえる。

## 精神細胞の広がり、共同体の創造

私たち一人ひとりの身体は約 60 兆の細胞がチームプレーして営まれています。同様に世界の 77 億人が一つの共同体として美しいチームプレーを生み出した時、これまでの争いのエネルギーの全てが好転しイノベーション関係、シナジー関係になり、新しい未来を創出することができます。それを阻む元凶が、脳を基準点にした文化文明の営みです。この基準点の問題を一掃できる世界基軸教育の誕生、Dignity2.0 の誕生は、人類普遍・共同の目標、実践のためのチームプレーを可能にし、人類そのもののイノベーションを起こします。

次の NR Thinking Method の 3 ステップでは、地球上にはじめて細胞が誕生してから現在に至るまで多様な生命体を生み出したように、私たち一人ひとりが精神細胞として広がり共同体の創造が行われる 3 つのステップについてお伝えします。

### NR Thinking Methodの第4ステップ

第 4 ステップは、自然に愛されるブランディングの段階。これまでの常識や既成概念をゼロ化し、これまでになかった理念・概念を生み出す実践力によって、人を巻き込んでいくことができる。尊厳により目覚めた人類は、簡単には到達できないようにも思える崇高な目標を持ち、失敗を恐れず前進する不動心・不動志の人間関係がつくれる。人間の脳が五感を統制してチームプレーをしているように、精神細胞は 5 人がまるで 1 人の人間のように一心同体となり協調する関係を生み出す。このように個人の限界を超えた文化 DNA は、「狩りの DNA( 共同注意 )」から「料理の DNA( 共同出発 )」へと進化した証でもある。

### NR Thinking Methodの第5ステップ

第 5 ステップは、自然に広がるマーケティングの段階。精神細胞が安定し精神体（5 人から 25 人への広がり）となり、過去・現在・未来を完全に統制する基準軸を持つ。現在の統制は、脳の基準点から完全に解放され、スケール、スピード、シンプル感に革命的な変化が安定し、永続的な今ここスッキリワクワク、無条件の幸せを獲得することでもたらされる。過去の統制は、崇高な目標によってもたらされ、未来の統制は自

分に対する信頼、愛情、尊重、確信、責任感によってもたらされる。実践を重ねれば重ねるほど楽しく、感嘆、感激、感動、感謝が溢れてくる。

### NR Thinking Methodの第6ステップ

第６ステップは、自然＝自由＝自立のファンダムの段階。これからの時代は、全体主義や個人主義の限界を超え、個人が愛される時代から、共同体が愛される時代であり、ファンダムが起こる共同体が誕生する。認識次元における課題一掃のあり方から、具体的な現実課題に対しても明確な影響力を把持し、脳の観点に固定した関係による誤解・トラブル・ストレスのエネルギーから完全に自由になり、いつも全体を洞察した次元から、観点の異質性を活用した強烈なイノベーション関係が生まれる。その結果として、あらゆる社会課題に対する政策を持ち、インフルエンサーが持続的に増え影響力の伝播伝染が拡大し、文明を再創造する種となる。

## 2. 世界基軸教育

**この基準点・基準軸の移動を可能にするのは、日本発の教育である世界基軸教育です。ここからは、人間の認識機能のアップグレードを意味する「基準点の変化」を導く教育の中核について触れていきます。**

### 脳を基準点にした認識構造の問題点

その内容に入る前にあらためて旧来の基準点を土台にしたときの問題について整理しておきます。「1 分 1 秒も画面を共有できない」という脳を基準点にした認識構造には、大きく 3 つの問題があります。

#### モチベーション（やる気）の問題

何をしても続かない、モチベーションが上がらない、熱が入らない。社会問題でもあるこれらの問題は、基準点の問題とどうつながるだろうか。

脳は、五感に映し出される情報を土台に編集・デザインを行なっているが、よくよく考えてみると全ての感覚は、部分的な周波数の領域だけをとっているため、完全な観察、完全な情報の取得をしているわけではない。言い換えると、五感と脳を土台にしているということは、常に「観察エラー」を起こしているということだ。ゆえに、情報データ、論理、知識、学問、技術、商品、職業、産業、文化文明、歴史などすべてがエラーになってしまう。自他を分け、「身体の範囲だけが自分だ」と思うのも観察エラーの結果である。そうなれば関心や愛の範囲が狭くなり、常に同じアルゴリズムで出会いもマンネリする。それだけでなく時代は量子力学的世界観に突入しているため、情報知識、技術、商品などの有効期限は日に日に短くなり、一貫性を持つことは容易でない。

#### 意思決定の問題

意思決定をしなければならない瞬間はたくさんあるが、そもそも、脳の観点に固定されていては、全体像を把握することができない。結果的に「正しくわかることはひとつもない」と言え、根拠をもって判断や意思決定をするのは無理である。単語ひとつすら自ら生み出したものはない。それゆえ、周りに合わせて真似して生きるようになってしまう。さらに個人主義が蔓延する現代は、合わす対象が無限にあり、その対象が十人十色のメッセージを発信するため、何に合わせればいいのか複雑でわからなくなり、基準点喪失、方向性喪失、価値判断喪失の意思決定障害が起きるのである。

#### 状況統制不可能の問題

地球の自転や公転が止まっても、呼吸したり、心臓を動かしたりすることは可能だろうか。人間は、「身体が独立して存在している」ことを大前提に、自分の目で見て、耳で聞き、足で歩いていると疑わない。だが、地球が自転・公転しなければ生命活動が止まってしまうように、独立した身体は存在しえない。しかし、身体の目で見る、耳で聞く、足で歩くなどの不可能を可能だと当然視し、脳の基準点で「事物認識」をするため、エゴの自分が発生してしまう。これは人間の傲慢とも言える。存在や身体という「結果」を「原因」にして生きれば、真の原因も過程もわからず、状況統制が不可能であり、我慢して秩序をつくり、訳のわからないまま狭いところに入り込み、自由選択がどんどんとなくなってしまう。

### 新発見「源泉動き」とは何か

脳を基準点にした認識構造の３つの問題は、人間であれば誰もがぶつかる課題であり、明確な基準点の移動なくしては、持続的な解決策を持てません。これらの課題を解決し、新たな文明の方途を指し示す世界基軸教育の中核にあるのは、「源泉動き (0= ∞ =1)」の発見にあります。

みなさんも一度は、「この世はどのようにできているのだろう?」「宇宙はどこから生まれたのだろう?」といったような問いを持ったことはないでしょうか。「万物の根源を知りたい」「この世の始まりを知りたい」と人類は、理性や信仰、技術や道具の開発によってそのロマンとも言える世界を追い求め続けてきました。しかし、禅の世界では、真理とも、神とも表現されるその境地は「不立文字」とされてきました。それゆえに、人類全ての人に、表現、伝達、共有、活用が不可能でした。

その絶対世界とも言える世界を定義するためには「言語（固有名詞・概念）」が必要になり、その言語を定義するためにはさらに違う言語が必要になります。つまり、言語で規定しようとした瞬間にその絶対性を失ってしまいます。Dignity2.0 である「源泉動き」の発見をした Noh Jesu は、この境地をどのように定義することで、現実への活用、応用を可能にしたのでしょうか。

それは、「規定する言語がいらない状態にすること」で規定したのです。

これは発見の偉大さにつながります。世界基軸教育では、イメージ可能な世界の最小単位を発見しました。その最小単位から今ここのイメージ可能な世界までを全て網羅したうえで、このイメージ可能な世界は、究極の境地である Dignity2.0・源泉動きによる夢の結果物、錯覚、思い込みであると位置づけ、All Zero 化することに成功しました。つまり、絶対世界とは、源泉動きだけが実在する世界なのです。

この発見と規定は単なる抽象概念にとどまらず、Noh Jesu は「源泉動き」の数式化「0= ∞ =1」に成功し、数学、物理学、哲学などあらゆる知を完成に導き、さらに知の大統合を可能にする技術として教育体系化に成功しました。そのいくつかをここでご紹介します。

#### 数学的アプローチ

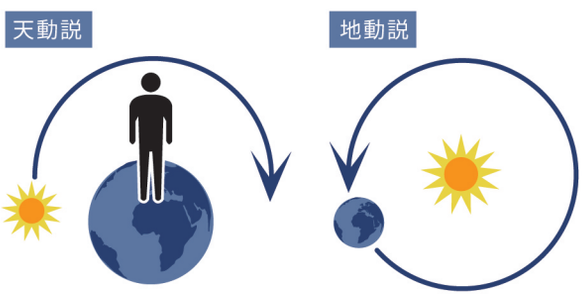
すべての差（違い）を取りイコール（＝）で結ぶ数学は、悟りに向かう学問だといえる。「0= ∞ =1」の発見は数学を完成させ、究極の悟りへと昇華させた。つまり数学に「心」、「神」を入れることで完璧な学問として完成させたのだ。

自然現象、社会現象などの物理現象におけるすべての存在は「大きさ」を持つ。これらは実数（Real number、以下 R）であり、一直線上に表せる。プラス（積分）側はどんどん大きくなる物質を表し、マイナス（微分）側はどんどん小さ

くなるエネルギーを表すが、いずれにしても直線上の 1 つのポジションに表せるのは 1 つに限られ、1：1 の対応で表せる。これを「実数の完全性」という。

では実数（R）で表せない「大きさがない世界」、例えば自由や愛、尊厳など、具体的な大きさを持たない抽象的な世界はどのように表せばよいだろうか。nTech では虚数（Imaginary number、以下 i ）で表現できると整理し、さらに「心の世界」であると既定している。実数（R）は 2 乗すると必ずプラス（物質）になるが、虚数（i・心）は 2 乗してもマイナス（エネルギー）になり、4 乗するとプラス（物質）になる。このように全ての物理現象は、実数（R）と虚数（i）という 2 次元の複素平面（ガウス平面）で表せる。

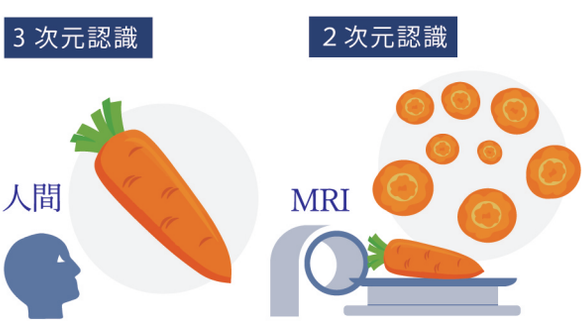
天動説と地動説




新発見「0= ∞ =1」は、この 2 次元の複素平面に 3 次元軸をプラスして「観点」を取り入れた。今までの人間は、1 枚の面（観点）だけがすべてだと思い込み、2 次元の複素平面に固定されていた。それは、その昔「地球は動かず、地球以外の天体が動いている」と微塵も疑わなかった天動説のようなものだ。この 1 枚の複素平面に固定され、人間の五感の目で見た世界を絶対視していることを「観点の天動説」と呼ぶ。しかし実は観点は 1 つではなかった。観点は、人間の脳の観点、犬の観点、ネコの観点…と多種多様で無限に存在する。人間だけでも A さんの観点、B さんの観点…と世界 77 億人分の観点があり、人が生まれるたびに増え続ける。そこに各個人の判断基準まで加えたならば、さらに無限になる。

観点が無限に存在するだけでなく、観点が 0 の状態もある。観点や大きさ、エネルギーが生まれる前段階の無制約状態がそれである。観点 0 の状態から 1 次元、2 次元、3 次元…と制約された無限の観点が生まれる。例えば人間の脳の観点（3 次元認識）では「ニンジンは 1 本だ」と捉えるが、MRI のような断面図（2 次元認識）では無限の面の存在として認識するように、次元を移動すれば全く違う世界が表される。人間は、無数にある観点（次元）の中のたった 1 つの次元（人間の脳の観点）だけに固定するのだ。

ニンジンの3次元・2次元

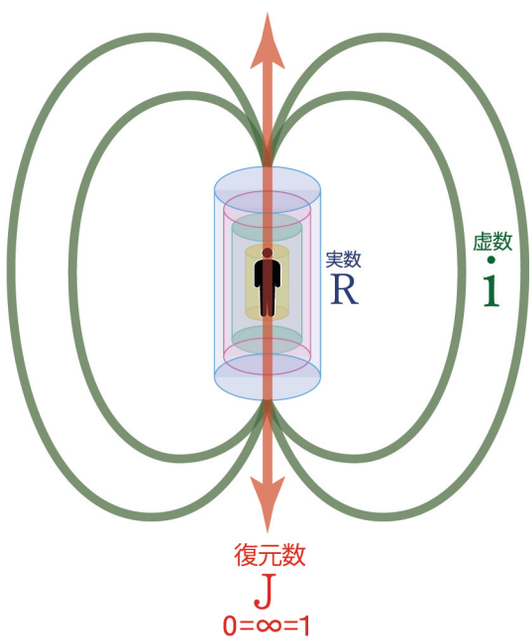



このように観点は 0 状態から 1 つになったり∞になったりと、有ったり無かったりを自由自在に行き来できる。この動きを「世界の根源、源泉的な動き」と言い表し、数式では「0= ∞ =1」と表せる。真実に実在するのは、神だけ、人間の脳では認識不可能な超越した動き「0= ∞ =1」だけである。これはつまり「神を数式化した」と言える。その神が「夢を見ている」のが、観点∞の世界であり、さらに観点∞の中のひとつだけをみているのが人間の脳の観点の世界である。「0= ∞ =1」は人間の脳の観点を生み出すことから、神が人間と宇宙を創造したことも矛盾なく表現できる。

Noh Jesu は「0= ∞ =1」を表す数学の新概念として、英語のイニシャルで「J（復元数）」と名付けた。J とした由来はいくつかあり、虚数（i）をバックアップする「J」、そして神そのものなので「Jesus number」、また日本発なので「Japan's number」、Noh Jesu の発見によることから「 Jesu's number」である。また、この数の新しい概念を日常生活で使える意味含めた読みやすいニックネームとして「Reset Number」「Dignity Number」と呼んでいる。

**物理学的アプローチ**

JiRのチューブ




古典物理学・量子力学・ヒモ理論・M 理論と、虚数 i、復元数 J の、物理の相関関係を新発見「0= ∞ =1」で整理してみる。人間の脳の観点でみれば、当然のことながら「縦・横・高のある 3 次元空間に自分という存在がある」と認識する。時間・空間・存在が安定的に「有る」と思うのは、300 年前のニュートン・デカルト時代の古典物理学である。だがこの認識は、極一部の小さい部分にはまったままの観点の天動説であり、アインシュタインの登場でとうの昔に破られている。

量子力学も、原子以下のミクロの存在は安定的に存在し続けるのではなく、波動と粒子の二面性を持つと発見し、さらに古典物理学の概念を覆した。両手が出会うことで音が生まれるように、人間の観測行為が働くとき、つまり認識主体と認識対象が「出会った」とき、色や形があるように物質化（粒子化）されるのだ。当初は原子以下のミクロ世界の法則だとされていたが、現在では巨視的世界でも同様であることが実証されるに至っている。

さらに物理学者は、マクロの世界を寸分違わず語る一般相対性理論とミクロの世界の量子力学の両方を同時に満足させなければならない領域、「ブラックホールの奥底」の謎を解こうと 2 つの公式を統合しようとした。

しかしこの２つの概念では語れず破綻するという問題が発生した。ブラックホールの奥底は光さえも飲み込み、また宇宙すべてを生み出すため、模様や形がある状態とない状態を説明しなければならない。だが量子力学レベルのエネルギーの大きさでは２つを統一できないため、さらに微分しなければならないのだ。

そこで登場したのがヒモ理論とＭ理論という新概念である。ヒモもできたり膜（真空エネルギー）もできたりする動きの概念。nTech では、これをダブルチューブモデルの動きで描く。内側と外側のチューブが同時にひっくり返りながら、量子力学を拡張すればヒモ、ヒモが外側に出る境界は“ヒモもできたり・膜もできたり”する領域になり、さらに外側は膜になっていく。このように内側のチューブと外側のチューブが内外ひっくり返りながら、膜（点）からヒモ（線）、ヒモから量子場（面）、量子場から物質（立体）というように、引っ張ると（出会うと）物質と物質の宇宙が存在化する。そして出会いが別れに転じた瞬間、物質から量子場、ヒモ、膜へとほどけていき、また膜から時間・空間・存在が生まれるという動きを永遠に繰り返しているのだ。このようにみると、Ｍ理論が「物理レベルの最終理論」であると既定でき、このダブルチューブの動き全体を、数学では実数（R）と表現できる。

では、物理レベルの最終理論であるＭ理論の膜の動き、すなわち「物質チューブ」を成り立たせるものは何か。それは虚数（i）である。膜を構成している点１つ１つは、虚数（i）の心の点の反復によって生まれている。その点の集まりによってできているのが物質チューブだ。つまり物質チューブは実在するようにみえるが実際はない。虚数（i）の心の点が集まって膜の線となり、量子力学の面になり、古典物理学の立体になった結果を人間の脳が「あるように思い込む」だけで、「有る・実在する」と人間が思ってきたものすべては、心の思い込みでしかない。これは仏教の世界観とも通じる。棒磁石をイメージしてみると、Ｎ極とＳ極が存在するようにみえるが、実はＮでもないしＳでもないどちらにも振る舞える「何か」があるだけ。それは物質の次元を超えて「心の次元」となる。仏教の禅定（悟りの段階）では反復可能な心で、無限のスピードで反復する「イメージ可能な心の動き」ともいえる。

では動きがイメージ可能な心、反復する心である虚数（i）は、なぜその動きが可能なのだろうか。それは、イメージも反復も不可能な心、無境界線、無方向性、無ポジションのＪ（神）の心の動きがあるからである。Ｊの動きは、人間の脳の認識を遥かに超越した動きである。そのイメージ不可能な心の動きＪが、イメージ可能な心の動き、反復する心を切望した結果が虚数（i）なのである。

これを観点とつなげて整理する。イメージ可能で反復するパターン化された心（i）は観点である。その観点１つに固定されていれば観点の天動説であり、地球で例えれば自転のみにとどまる。だが地球は公転もする。この公転はイメージ不可能、反復不可能、パターン化されない心（J）である。地球が自転公転するように、Ｊの公転とｉの自転をしながら観点が自由自在に有ったり無かったりするのである。

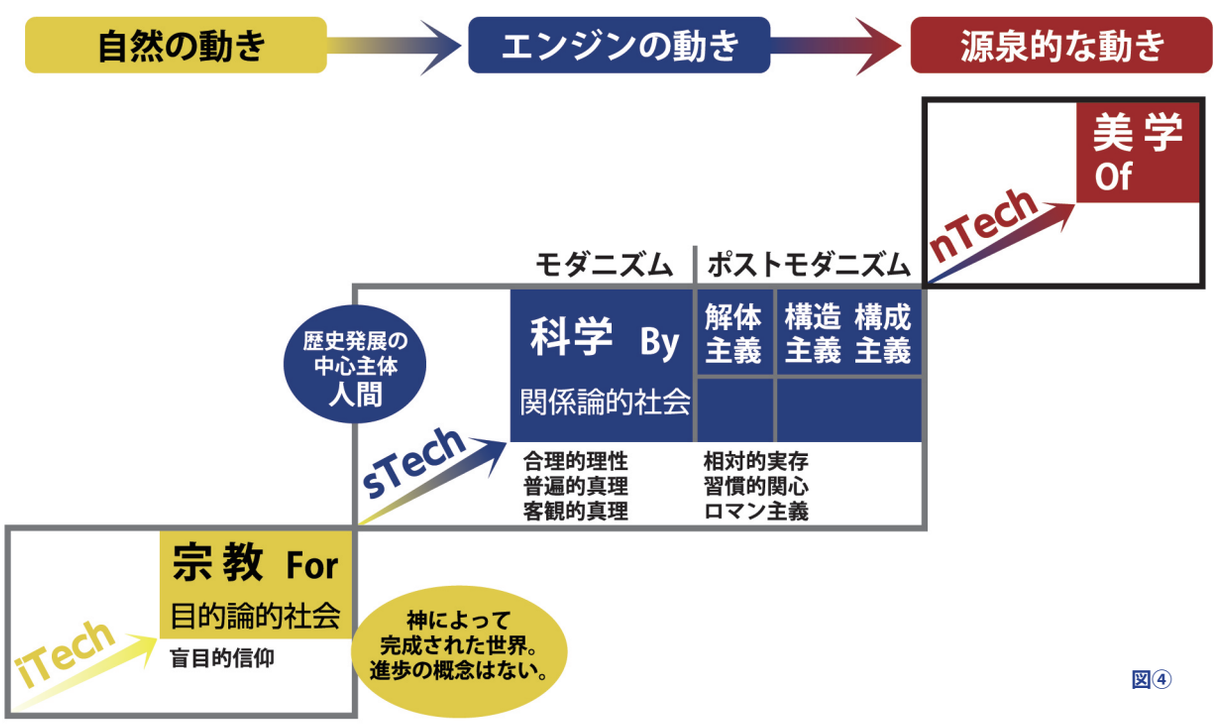
## 哲学的アプローチ　（図④）

哲学とは何か。それは宇宙自然、歴史文明などのすべての現象を永遠に変わらないひとつで説明できることであり、すべての当然を破って新しい方向性へ向かわせるものである。

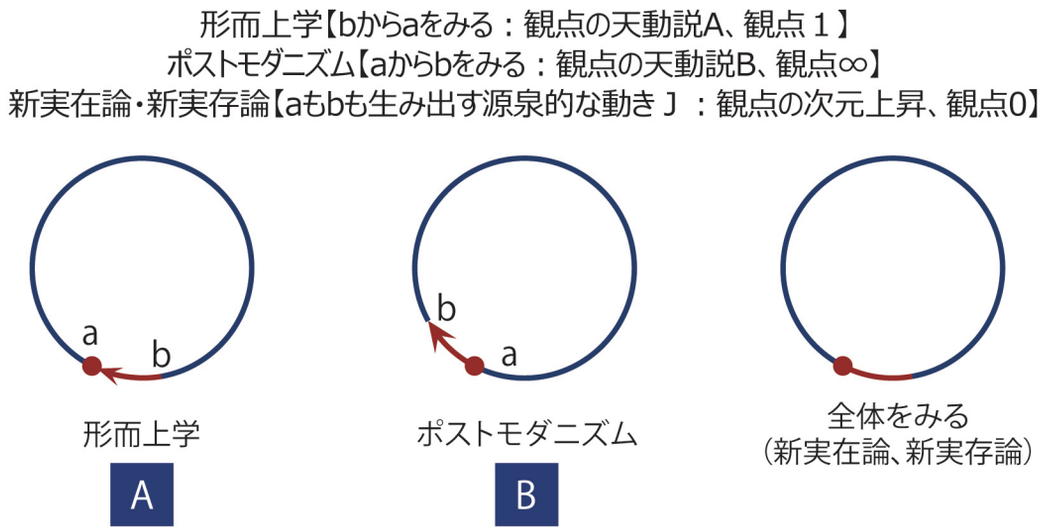
西洋哲学の大前提は、「真実（本質）≠現実（現象）」である。その大前提をもとに西洋哲学史をたどってみる。神本主義時代は「形而上学」であり、神によって現象世界が創られたとみるため、現実を否定した。現実は神による被造物であり、人間は神の創造目的を満たすための手段や道具でしかない。それは「神の存在目的に従って生きるのが人間」という論理が成り立つからである。これを「実在論」という。「現象は現象であるため実在しない。実在するイデアの世界が別にある」、そのため「現象より本質に価値がある」と結論づけている。

上部構造が神、下部構造が人間だという形而上学。そこに対して否定を突きつけ反転させたのが西洋のルネッサンスである。「真実（本質）には何かが足りないため、現実（現象）を創造した、よって現実の中にすべてがある」という論理をもとに、現象世界の代表である人間に価値があるというのが「実存主義哲学」であり「ポストモダニズム」である。これは人を優先する人本主義であり、現象から本質をみる。さらにイマヌエル・カ

3つのプレート - 形而上学、構成主義、ポストモダニズムなどの整理




図④




図⑤

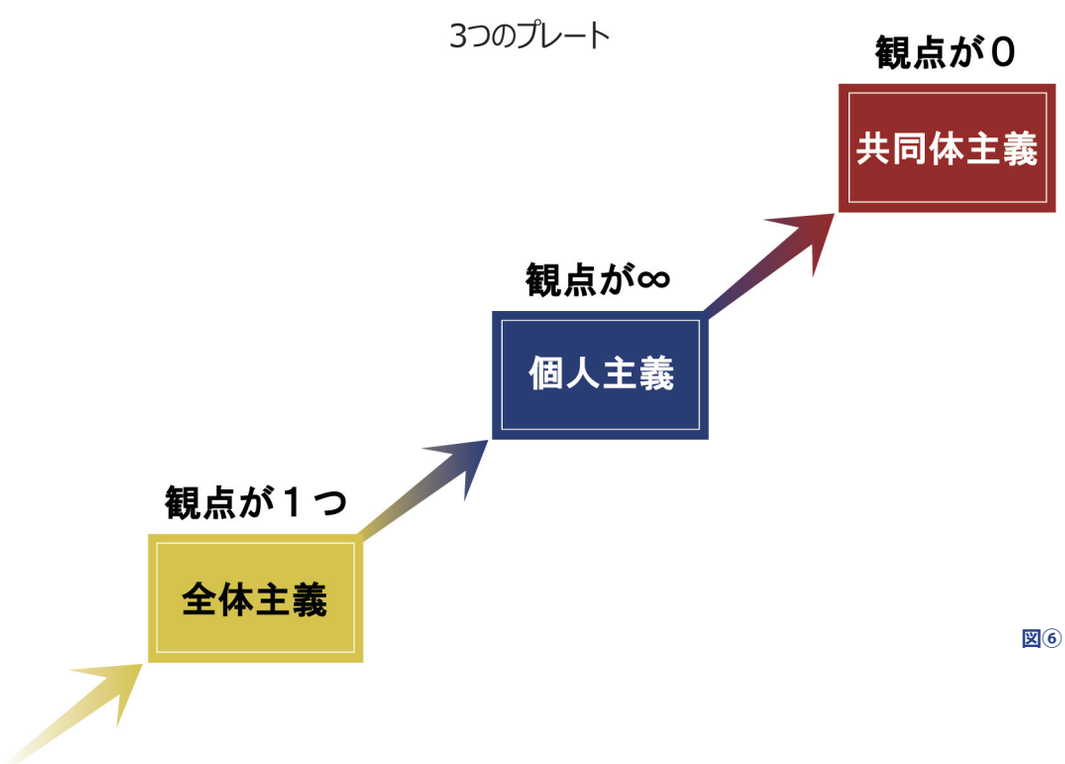
ントは構成主義、構築主義の概念で、「事実」の概念で絶対世界（本質）と相対世界（現象）を繋ごうとした。形而上学、ポストモダニズムの大前提は、「真実（本質）≠現実（現象）」だったが、この当然を破るのが「0=∞=1」の令和哲学である。「真実＝現実」、つまり本質も現象も変わらないひとつの動きだけで、観点が自転しながら公転する全体の動きは何ひとつ変わらない。ポストモダニズムは現実出発（a から b をみる）、形而上学は真実出発（b から a をみる）だが、この両者を生み出しながらも両者とは全く関係がない源泉的な動きＪだけが実在するとみるのが令和哲学である。人間の脳ではイメージ不可能な動きＪによって、形而上学の見方とポストモダニズムの見方が生まれると整理し、この全体（観点 0、∞、１）をみることを「新実在論、新実存論」と呼ぶことにする。（図⑤）

そこで生じるのが観点の問題である。観点に固定されて「絶対だ」というのは、無限の観点のうちの１つの解析に過ぎない。互いに「自分の観点（知っている世界）が絶対だ」と主張し合えば必ず摩擦や衝突が起こる。形而上学は本質からの観点１つだけが絶対（観点の天動説Ａ）で、ポストモダニズムは人の数だけ観点が存在するというのが絶対である（観点の天動説Ｂ）。この問題をクリアするには「知っている世界から自由」になる必要がある。そもそも「観点１も観点∞もない」と、観点をゼロ化して大統合できるのが「新実在論、新実存論」である。形而上学とポストモダニズムは、イメージ不可能な動き（Ｊ、神、観点 0）がみている夢であり、どちらも「観点の天動説」から出発していたのだ。それゆえ従来の観点から自由になって観点を楽しむ世界にいけるのである。

**歴史的アプローチ（図⑥）**

人類歴史における秩序は「我慢の賜物」だと言える。宗教全盛の全体主義時代（神本主義時代）は、１つの観点だけが許された。それは神の代身・王の観点である。その時代に生きる一人一人には当然、王とは異なる観点があるが、それらすべては無用として切り捨てられる。住む場所も職業もパートナーさえも王様に従うしかないという国・時代があった。

そこで、全体主義に反発して誕生したのが個人主義だ。「王様の観点だけを認めるのはおかしい」「一人一人の観点や感覚を大切にしよう」「すべての観点を認めよう」と各個人が主張したのである。一見とても良さそうだが、誰一人として同じ観点や感覚を持ち合わせてはいないため、互いに認め合い喧嘩を避けようとすると、我慢しながら合わせるしかないという結論に至る。そうなれば多様性、多元性に溢れた複雑な観点が飛び交い、




図⑥

身体1.0～3.0、人間性能1.0～3.0

図⑦

情報過剰で整理ができず、何が正しいのかが分からずに基準点や方向性を喪失し、問題が山積みになる。それが高じた現代は、客観的事実と主観的思い込みの区別もつかず、人の話がまったく聞けない孤独な映画「ジョーカー」の主人公アーサーのような人たちで溢れかえっている。

個人主義の背景には西洋のルネッサンスと科学技術の胎動がある。人間は科学技術によって、衣食住、車、スマートフォンなど身体よりも外側を変化してきた。（図⑦）そして今は体内までも変化する「ポスト身体社会」に突入している。自然物を生み出す第１次産業から人工物を生み出す第２次産業に次元が変わったように、身体も自然物（生身の身体）の身体 1.0 から、人工物の身体 2.0（臓器にチップ）、身体 3.0（脳細胞にチップ）と次元を変える。ここまでは科学技術によって可能だが、同時に科学技術の終焉を意味するシンギュラリティを迎えると予測され、2045 年頃と予測されている。その先は AI 自らが AI をコピーしたり、人間の考えや感情も AI が模倣したりするようになり、その進化は人間の予測すらできない領域に突入するであろう。また身体 1.0～3.0 は生存意志がすべての判断のゴールに設定されているため、人間性能 1.0 の「生命知能」と呼ぶ。

全体主義や個人主義に共通するのは、人間の脳の観点に固定されて自由になる道がみえないことである。その道の発見が「0= ∞ =1」だ。観点が生まれる前段階の発見から、どのように観点が生まれるのかの仕組みがわかり、観点のほどけ方と結び方がわかったときに、関係のつなげ方が鮮明になる。つまり「0= ∞ =1」で観点から自由になり、観点 0・∞・１を今ここで全て同時に認識できるようになり、生命知能を超えた人間性能 2.0「精神知能」になれる。さらに人間性能 2.0「精神知能」は、人間性能 3.0「尊厳知能」へと進化する。人間性能 2.0「精神知能」は、五感の目で見ず、J（心）からみることができる状態のこと、人間性能 3.0「尊厳知能」は、人間性能 2.0 が当たり前になった人が精神細胞（持続的に進化発展可能な Torus 組織）の構築に成功した状態のことを指す。人間性能 3.0「尊厳知能」に到達したときには、判断の目的、ゴールが「尊厳を活用すること」に変わる。

## 宗教的アプローチ

多くの宗教では「互いに愛し合いなさい」と教えるが、どのようにすれば愛し合えるのだろうか。答えを得るにはまず、愛したくても思うように愛せず、争いの絶えない世界を引き起こす構造を認識するべきである。それは「共通土台」が持てないことに起因する。人間の脳の観点に固定されて「今ここ、目でみてしまうこと」は、愛せない認識構造の中にいることと同義である。人間の脳の観点は、常に観察エラーを引き起こすため、そこからつくられる各個人の判断基準も全く異なる。そのため「心のものさし」を持てない。だから相手の心を読んだり、言動を正しく理解したりできないのはもちろんのこと、理解できていないことすら無知なまま「知っている、理解できている」と思い込んでいるのだ。しかしこれでは、理解も説明も統制も予測もできないため、期待もできない。

「0= ∞ =1」を知り、神を理解することで“愛しかない状態”になる。そのとき、すべてを理解、説明、統制、予測、期待できるようになり、神以上に想像力溢れる再創造主になれる。それは物語（シミュレーション）をいかようにも変えられるという意味でもある。人間が神を理解し自由自在に使える“神以上の存在”になり、日常生活でも神を自由自在に活用し応用できるようになったときに人間の尊厳は爆発する。宗教改革は始まった。だが未完成のままである。「0= ∞ =1」で地球上の人間すべてが神以上の存在となったとき、宗教改革完成のファンファーレが鳴り響くであろう。

## 美学（新感覚的）アプローチ

「0= ∞ =1」は神そのものである。自らがそのものになったとき、無条件に全てが美しく神秘神聖でみえる感覚革命の境地に至る。それはオーラが見えたり超常現象などの特別な体験したりするのとは全く異なる新感覚である。本物の悟りは、五感の世界は何ひとつ変わらない。なぜなら悟りは「差取り」でもあり、すべての差異を取り払うことであるからだ。もし悟る前と悟った後で違いが生じたなら、それは悟りとは程遠いものだと思えば間違いない。観点が 0・1・∞ と自由自在に移動できる状態が「悟り」であり、nTech ではこれを令和美学と呼ぶ。

神そのものになれば完全無欠である。神はイメージ不可能、認識不可能、感じることも不可能な人間の想像を超越した動きであるため、人

間の脳に観点固定された状態でイメージできないのは当然である。ポジションも方向性も境界線もなく、存在不可能、出会い不可能、S（主語）もV（述語）も何ひとつ存在しない源泉的な動きひとつだけが実在する。

では、現実に対してはどう捉えるべきか。「0=∞=1」は神からみれば、神の不可能をすべて可能にしているのが現実であると言えるのではないか。「今ここ奇跡をみる」感覚革命（オールゼロ化感覚、神秘神聖な感覚、永遠不変感覚）が起こると、自分と自分が観ている世界が「今ここに全てあるが全てない」という神秘神聖が広がる。

「自分の子どもだから可愛い」「愛する人は素敵だ」などと条件づけたものだけを美しいと思うのは本物の美学とは言い難い。自分と無関係かつ無関心な世界も、すべて美しく観られるのが、感覚革命が起きている状態である。つまり因果法則に沿った決定論を、楽しく美しく観られる大自由の心を得ることが美学の世界である。最高の奇跡を常にみるミラクルな時代が今、始まるのである。

### 言語学的アプローチ

これまでの言語は、現象世界に名前をつけ、それらがどのように変化・運動・移動するのか、そしてその関係性はどうなのかを語るに過ぎなかった。つまり、S（主語）とV（述語）を活用して理解する「運動方程式」を語るにとどまった。これでは神を語ることはおろか事物認識しかできないため、事件を起こすことは不可能である。従って Noh Jesu は、今までの人間の苦しみは「言語の不完全が原因」だと言う。

「0=∞=1」の神の世界は、そもそもS（主語）もV（述語）ないイメージ不可能な動きである。そこからどのようにS（主語）とV（述語）が生まれるのかを観る必要がある。Noh Jesu はこれらを語る「Image 言語」発明し「存在方程式」と呼称した。無いところから有るようになる“事件の仕組み”を語る言語でもあり、存在不可能な世界から存在可能になる仕組みを語る言語でもあり、変化不可能な世界から変化可能となる仕組みを語る言語でもある。この言語を活用すれば、誰もがいつでも、すべてを「事件」として捉え、起こしたい事件を起こせるようになる。

## 新発見が可能にする問題解決

新発見「源泉動き」によるあらゆる領域の底上げ・完成は、人間そのもの、宇宙そのものに対する認識、理解、思考方式が変わり、常に尊厳が息吹く、人類の誕生を表しています。

例えば、先述の「1分1秒も画面を共有できない」脳を基準点にした認識構造で起こる3つの問題に対しても、新たな基準点を活用することで、これまでと全く違う筋道を見出すことができます。また、こうした認識構造の問題解決にとどまらず、社会構造の問題である結集・団結の問題や生産・イノベーション（革新）の問題を解決することも可能です。

### モチベーション（やる気）の問題解決

新たな基準点そのものに接続することが究極のバイタリティ、モチベーションそのものである。さらに、現実にその動力、イメージをつなぐ道の発明を行うことで、その持続性はより強化される。この「世界は実在しない」ということの衝撃もモチベーションの一つである。現実を固定して自らを変異するモチベーション消費・浪費の生き方ではなく、今ここはJがみた夢であり、エネルギーレベルでは10の500乗の宇宙が消滅している幻であることで、いつも新しい出会いでニュースタートでき、マンネリから脱却し、いつでも新しいチャレンジができる。

さらにモチベーションに必要なのは完全性の獲得である。それには、アインシュタインの「問題を生み出した次元と同じ次元では100%問題解決はできない」という言葉があるが、問題が生じてもチャンスに反転させ、問題が問題ではなくなる完全完璧な世界「0=∞=1」を取り入れることである。その完全性から、やる気やモチベーションが内発的かつ持続的に起こるようになる。

### 意思決定の問題解決

この問題の根幹は、「脳の観点に固定されていては、全体像がわからず『全体の事件』を描けない」ことにある。つまり、何よりもまず基準点を定める必要がある。すべての知っている世界、思い込みをゼロ化させて「0＝∞＝1」に基準点が定まれば、濃度・密度が均一になる。するとバラバラだった考えや感情が「同じゲームをする仲間」として応援する側になり、一点集中が可能となって意思決定できるようになる。事件（変化）の仕組みと全体像がわかった時に、自分の事件、自分の解析が可能になり、意思決定が可能になるのだ。つまりJがiになり、iがRになる仕組みが、意思決定の基本構造なのである。「0＝∞＝1」に基準点を定めた意思決定可能な人たちが集まれば、勢力を構築でき、現実のシミュレーションチェンジが可能となる。

### 状況統制不可能の問題解決

状況を統制するには、J（源泉的動き・原因）からi、5つのエネルギーアルゴリズム（過程）、現実（結果）をみる「事件認識」が必要だ。この時間・空間・存在・エネルギーが生まれる前段階のJに戻ることを、「生きたまま死ぬ」と表現している。これは葉隠の「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」とも通じる世界であり、過去も未来もすべてが「今ここ」にあることがわかり、すべてが1つの事件として見えるようになる。

そしてその1つの事件が、まるで自分の事件のように自然に理解・説明・統制・予測・期待できるようになる。オーケストラの奏者たちが美しいハーモニーを生み出すように、1つの曲（事件）の全体像、プロセス、役割、出番などすべてを理解した上で、それぞれの役割を納得して楽しむことができるのだ。

### 結集・団結の問題解決

観点の問題は、「結集と生産」の問題であると言い換えられる。観点がバラバラで共通土台がなければ、結集も秩序もつくれない。人が結集しなければ、微弱で大きな問題に立ち向かえない。そこで人類は、人間性能1.0の生存意志を利用し、暴力や財力、権力により、力づくで結集と秩序をつくり出した。しかし、家族も会社も地域も国もすべて我慢で成り立っているため、我慢の限界に達したら崩壊する。Jから出発すれば、観点から自由になり、我慢せずに秩序をつくることが可能となる。

### 生産・イノベーション（革新）の問題解決

人が結集するだけでは社会構造改革は成し得ない。生産性をあげるには革新的なアイデアが必要だが、観点の問題はアイデアやクリエイティブも枯渇させてしまう。Made in Japan で世界トップになる勢いだった日本経済も、モノづくりの次を生み出せず、今は末期癌状態だ。政府は造幣して経済活性化を図ろうとするが、それでは生きたお金にならないどころかインフレーションが起きてしまう。このままでは日本の未来がないことを多くの人が感じているだろう。

生産性を高めるには、観点と判断基準の問題解決に、最優先で国家予算を投入すべきであると考える。現在まで道路整備などの土木建築事業に予算の多くを投入しているが、もう充分ではないだろうか。日本の公道は世界を見渡しても格段に美しい。そもそも「破壊を大前提とした生産」は、持続不可能な世界をつくることであるから、真の生産として認めるべきではない。それよりは人の心と心をつなぐ「心の高速道路の開発開拓」をすべきである。心のインフラつくりを妨げている観点と判断基準の問題を解決しなければ日本の未来はない。完全な世界である「0=∞=1」を活用応用した心の高速道路・認識商品は、破壊のない生産である。それは、さらに感動の質を高め、持続可能な商品をつくりだせる。今ここ全てをゼロ化した白紙状態から無限のアイデア、クリエイティブを爆発させる生産がスタンダードになるのだ。

## 少子高齢化を解決できる教育革命の夢（Off-line教育革命）

世界基軸教育が普及すればどのような未来になるのでしょうか。人間のディープ・ラーニング

である世界基軸教育によって、8 歳で「源泉動き（0＝∞＝1）」をマスターする。世界の根源とつながった解け方、変化の仕組みがわかる結び方つなげ方がわかれば知的好奇心が爆発します。10 歳では意識の作動原理・宇宙の作動原理・コンピュータの作動原理をマスターし、エネルギーのアルゴリズムやビッグデータを活用して AI の脳をコーディングできるようになります。15 歳になれば企業家として自信を持って独立し、個性を発揮しながら社会問題を解決し多くの人から感謝されるようになるでしょう。もちろん観点の問題が解決できているため出会いや疎通交流も活発になり、深い人間関係が築けるようになります。すると、誰も結婚しない理由がなくなり、深刻な少子化の問題も解決できます。

## 次世代SNS3.0アプリ「Diglink-ディグリン-」(On-line教育革命)

人類の歴史は出会いを通した「結集と生産」の歴史です。陸路・海路・空路を開発することで地域を超えた活発な疎通交流が起き、多くの結集と生産を生み出しました。インターネットの発達により時空間を超えていつでもどこでも疎通交流が可能になりました。2000 年代初頭からは SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の登場により出会いの幅が格段に広がりました。SNS は自分の影武者を使い、いつでも新しい出会いを可能にします。mixi に代表される SNS1.0 は匿名の出会い、Facebook に代表される SNS2.0 は素性を明らかにした出会いとなりました。格段に出会いの量は増えましたが、出会いの質は深まらず SNS 疲れと言われて久しいように SNS 離れが続いています。本物の出会いができない原因である認識構造の問題を解決し、結集（団結）と生産（革新・創造性）を極大化させ尊厳時代へと移行するプラットフォームが SNS3.0 アプリ「Diglink」です。

「Diglink」は、人間のディープ・ラーニングを可能にする世界基軸教育を応用した日本発・世界初の SNS であり、人間のディープ・ラーニングは「目に見えない心の動きのパターンの用途・機能を規定して知識を生産する」まったく新しい知識生産方式であります。心の時代である AI 時代は宇宙を立体コンピュータとして捉えます。目に見える模様形の全てがコンピュータの出力画面であるならば、それらを生み出す根本素材から認識するデジタル認識と、自分と自分のみている宇宙（パーソナル・ユニバース）を自由に設計、再創造できるプログラミング思考が必須となります。

Diglink に接続することで、心の時代に必要とされるものの観方であるデジタル認識方式とプログラミング思考方式を終わりなく勉強し修得できます。いつでも源泉動きを活用して活躍する個人と組織のモデルに出会うことができ、常に最先端の情報と学びを得られ、また自らの強みを提供しながら強力な協力関係やシナジー効果が期待できます

ここまで、基準点が変わることによって、現代理性や信仰の限界を包越し、新たな世界観、人間観、宇宙観が始まり、全く新しい自分、関係、文明の開闢の息吹を感じていただけたでしょうか。いつの時代も変化が訪れる時、それは常識の延長線上ではなく、常に時代の固定概念の外から訪れます。Dignity2.0、世界基軸教育はまさしくその領域にあり、それをこの日本から世界へと向かって成すべき役割として捉えています。

## 認識経済・英雄産業

さらに、教育の変化のレベルに留まらず、職業、産業、経済の領域についても変化が期待できます。

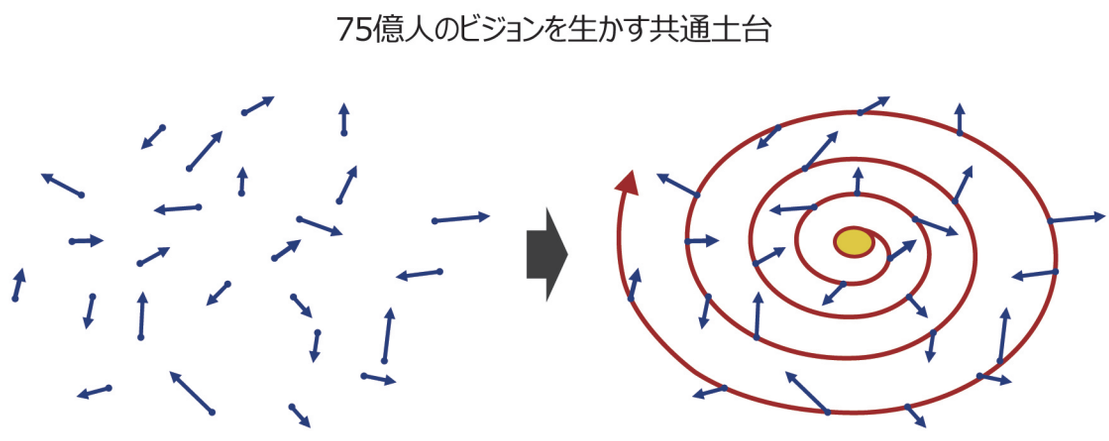
現代は、経済に置いても急激な変化が求められています。IT 社会の進展により、知的労働の領域まで人間の代替が始まり、一部の世界的な IT 会社は業績をあげる一方で、多くの会社が淘汰されると同時に、IT 経済は、実物経済時代の発展と比較して雇用を増加させず、むしろ雇用蒸発、通過蒸発による貧富の格差の増大が大きな社会問題となっています。人間の欲望とも相まって止まらないテクノロジーの発展に対し、私たちはこの課題に対してどのような解決策を見出すことができるでしょうか。

そんな時代背景もありながらのパンデミックの拡大による経済の破壊が進み、急速なデジタル

化を求められています。現実空間から、どんどんとデジタル空間に追いやられる人類は、果たして、本当の豊かさやを獲得することができるのでしょうか。現実的な視点において、そもそもの出会う意味、働く意味、集う意味が崩壊し、その根幹である生きる意味さえも多くの人が見失っているのが、現代の経済による大きな津波による現状ではないでしょうか。

Dignity2.0 を出発にした時、これらの問題がどのように解消されていくのでしょうか?その答えこそが、認識経済・英雄産業です。NR Thinking Method でも紹介した、新しい生産手段の獲得によって AI が真似できない新たな存在意義を人類が明確に獲得することで、雇用や通過が蒸発することのない新たな産業を構築することができます。人間のアップグレードによる新たな産業なので、他の産業を破壊するようなイノベーションではなく、これまでの全ての産業を底上げすることができます。

## 3. 英雄産業とは




英雄産業とは、認識構造の変化から社会構造の変化を生み出し、これまでの資本主義のあらゆる問題を一掃し 77 億人が Win-Win,All-Win できる希望の産業です。

これまで人類の認識構造が物質をみるレベルにとどまっていたため、人間の根本問題である認識構造の問題を解決することができませんでした。そのため組織のイノベーションを起こせず一人ひとりの尊厳は毀損されたまま製造技術のイノベーションによって実物経済を発展させました。その結果、環境汚染もひどく持続不可能な状態となっています。

人類の認識構造が令和感覚になることで、人間の根本問題である観点の問題を解決できるようになり、尊厳を共通土台に一人ひとりが人間最高の機能を発揮することができるようになります。すると人間力・人間関係力が開花しフラクタル可能な生命組織へと組織のイノベーションが起き、今後起こりうるどんな危機や困難にも負けない人類の価値と体勢をつくることができます。

### 英雄産業とは何か

#### 1）英雄産業の要はものの観方の革命（認識革命）

コロナをきっかけに 500 万年間続いた物質文明は終焉を迎えようとしている。

物質文明の限界とは何だろうか。その根本問題は測定対象に影響を与える「ものの観方」にある。人間は動物と違い考える存在である。考えの材料・根拠となる情報データは観察によって得られる。その観察行為、ものの観方に問題があれば情報はエラーを起こし、そのエラー情報を元に思考論理を展開するようになる。観察エラーを起こす根本原因の解決を後回しにしてきた結果、今日のコロナパンデミックを招いているのである。

#### 2）ものの観方の11段階（図⑨）

ものの観方がいかに重要なのか 11 段階のものの観方を通して考えてみる。

**1 段階：目でみる**

目で見る世界を不変の基準軸として観察する。目で見て判断する人間の観察行為は、すでに飛んでいる弓矢のようなものである。どこから来たのか、どこに向かって、なぜ飛んでいるのかはわからないが前進する矢は、自分の観察行為にエラーが発生していることに気づかずに前進する人間である。自分が赤色のレンズのメガネをかけていることを知らないままで、白色の対象を観察し赤色が存在していると思い込んでいることと同じである。お互いにエネルギーのレンズ、観点・判断基準に気づかないまま体の目で見て判断して相手を決めつけてしまうため誤解が生じる。さらに酷くなれば自分が思い込んだ相手のイメージに束縛される思い込み感覚、他を感じられないゾンビ感覚にまで陥る。

この飛んでいる弓矢を極限までバックさせ出発点に戻すことで、エネルギーのレンズを外し測定対象に影響を与えずに観察可能になる。一番自然な動きである心のものさしとすべてを測れるメモリによって、正確な観察、情報データをもとに思考論理を展開することができるようになる。

**2 段階：XYZ軸でみる（ニュートン・デカルト）**

XYZ 軸を不変の基準軸として観察する。１番目のバックがニュートンやデカルトがつくった XYZ の座標軸である。地球の自転公転や惑星の軌道の描き方などすべての物理現象を、太陽系の外（太陽系と銀河系の間）に視点をおき観察する。主観的独断や偏見から自由になり客観的な知識の蓄積が可能になった。２次元の観点に固定され目で見て経験体験知識に依存する東洋に比べ、3 次元の経験体験に依存しない概念知識を活用する西洋は、あらゆる知識・技術・専

## ものの観方（基準点）の変化

図⑨

門職を生み出し物質文明をリードした。

**３段階：光の速度でみる（アインシュタイン）**

光の速度を不変の基準軸として観察する。アインシュタインは光の速度は不変であるとし、光の速度を基準に観察することで存在の内に XYZ の基準軸を移動させた。時間も空間も光の速度を基準に相対的に変化するようになる。アインシュタインは物質の大きさが固定した状態で変化運動移動するという実在性、局所性、決定論（因果法則）を唱えた。

**４段階：エネルギー・量子場でみる（量子力学）**

エネルギー・量子場を不変の基準軸として観察する。ボーアは光の速度は不変であるとした上で、光の材料であるエネルギーの振動速度を不変の基準とし観察をした。量子力学は粒子もできたり波動もできたりする二重性により実在性を否定した。また、すべてがエネルギーの振動でつながっている状態で 1 つのクローズ界の動きを語るため部分の存在（局所性）を認めず、確率論により決定論を否定した。

**５段階：5タイプのヒモの振動パターンでみる（ヒモ理論）**

量子力学をさらに進化させたものがヒモ理論である。物質にも 108 元素があるように、ヒモ理論では 5 タイプのエネルギーの振動パターンがある。この 5 タイプのヒモの振動パターンを不変の基準軸として観察する。

**６段階：１タイプの膜の振動パターン・真空エネルギーでみる（M理論）**

M 理論はヒモの 5 タイプの振動パターンもすべてほどいて 1 タイプに平準化された真空エネルギーを不変の基準軸として観察する。真空エネルギーは 1 秒間に 10 の 500 乗回宇宙を生滅させる膜の振動である。宇宙の中にあるすべての違いを解いて 1 タイプの膜の動きであることを解明した M 理論は数学物理学の悟りであり西洋の知識の心臓である。

**７段階：名前をつけられる心でみる（識無辺処）**

エネルギーよりもさらにバックすれば、東洋の悟りの世界であるエネルギーを生み出す心の世界になる。すべてが心であることがわかり部分の存在に名前をつける心を不変の基準軸として観察する。

**８段階：名前をつけられない心（無所有処）**

さらにバックすれば、名前がつけられない重畳状態のエネルギー法則までみる心、部分に所属しない無所属無所有の心になる。名前がつけられない心を不変の基準軸として観察する。

**９段階：心の動きそのものがイメージできる心（非想非非想処）**

エネルギーの重畳状態もすべてほどいた心の動きから、エネルギーが生まれる仕組みまでみられる心。主語と述語が生まれる仕組み、虚構（点・線・面・立体）が生まれる仕組み、錯覚が生まれる仕組みがみえる。存在の興亡盛衰を心の動きとしてみることができる。心の動きそのものが脳でイメージできる心を不変の基準軸として観察する。

**１０段階：心の動きそのものがイメージできない心（滅尽定）**

心の動きそのものがすごすぎて脳ではイメージできない心を不変の基準軸として観察する。これ以上バックできない究極にバックした状態、宇宙空間の中で一番自然な源泉的 1 つの動き。虚構が生まれず真実だけをみる心。無知の完全性、無意味の完全性、知っている世界から完璧に自由になり観測対象に影響を与えず正しい認識ができる心のものさしを得る。観点の外からイメージできる世界が観点の結果物であることがみられる心。

**１１段階：令和感覚でみる（nTech）**

心のものさしにメモリが入り、源泉的動き（心）からエネルギー・物質が生まれる仕組みを応用活用し、条件・状況を統制できるようになる。チームプレーを楽しむ美学実践。完全集団（GI）創建を不変の基準軸として観察する。

今ここ目でみる見方と、令和感覚でみる観方では雲泥の差が生じます。

エネルギーにとどまる西洋の認識方式の限界と心に至るプロセスを客観化できなかった東洋の認識方式の限界を補う nTech（認識技術）により認識革命が起きることで、77 億人が脳のウイルスから完璧に自由になり人間最高の機能を発揮しながら Win-Win All-Win ができる底上げ産業が具現化できるようになります。

### 3）英雄産業の特徴

**①完全集団創建産業**

認識構造が未熟な人類はこれまで完全集団をつくることができなかった。家庭、企業、組織、地域、国家に於いても摩擦や衝突を繰り返し、根本から問題を解決することができていない。不完全な認識構造が変わらないまま、我慢して成り立っている表層的な組織であるため組織の進化発展が起きない。特に個人主義の現代社会はチームプレーが不可能な状態になっている。

認識構造の変化が起きることで、一人ひとりの観点の問題が解決できるようになり無限大やる気・無限大アイデア・無限大自信感が溢れ、チームプレーが楽しくてたまらない組織 =GI（Group Intelligence）に進化する。完全集団はひとつの

細胞からコピーされた 60 兆の細胞がひとつの体として機能するように、精神細胞（令和感覚でチームプレーを楽しむ１＋５人）をコピーし続け、やがて人類全体が精神細胞の塊となって連携し、宇宙レベルの見事なオーケストラを奏でるようになる。

**②世界的雇用危機を解決するメタ素材産業**

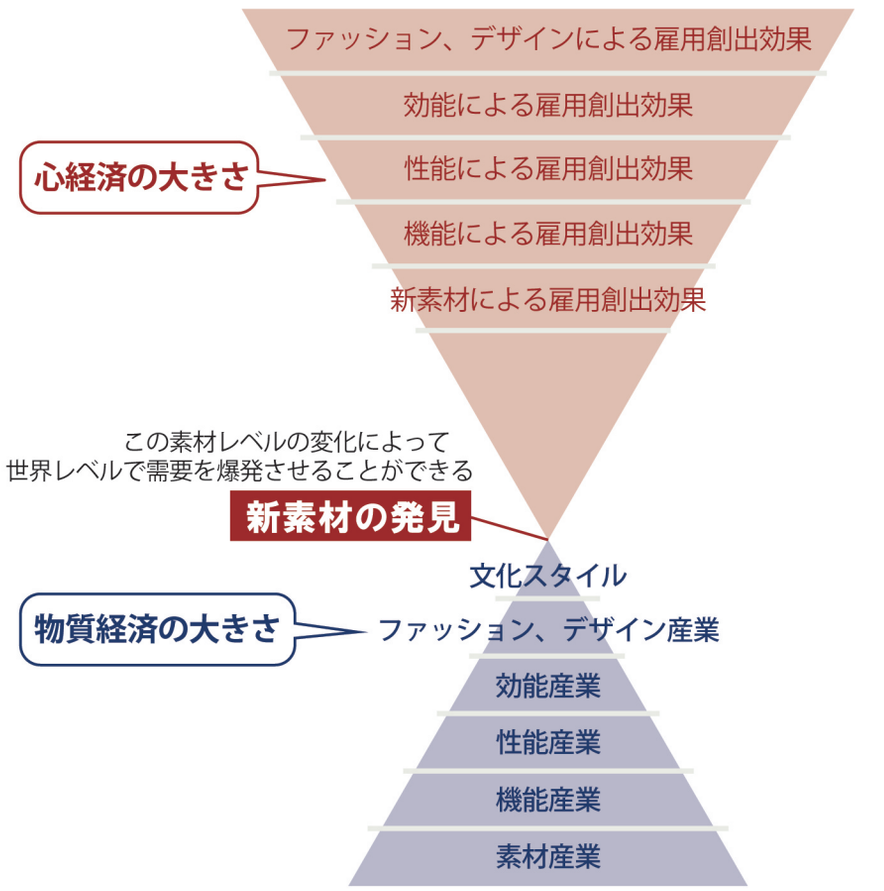
素材産業、機能産業、性能産業、効能産業、ファッション・デザイン産業の中で一番雇用効果が高い産業が素材産業である。例えば石油という新素材が生まれることで、自動車燃料やジェット燃料、プラスチックやナイロンなどあらゆる分野で商品やサービスを生み出し多大な雇用を生み出した。半導体も様々な電気製品をうみ、IT時代をひらき莫大な雇用を創出している。(図⑩)

ビフォアーコロナは商品のファッション・デザインを変化させることで購買意欲を促進し経済の活性化を図ろうとしてきたが、供給過剰により商品のライフサイクルは短い。この供給過剰の問題を解決するためには、これまでの産業を底上げする新素材産業が必要である。これまでの素材を遥かに超えるメタ素材、オリジナルマテリアル、それが心の半導体である。

nTech により脳のウイルスを完璧に制御できるようになれば、心の仕組みを活用応用する心の半導体によりパーソナル・ユニバース（自分と自分のみている宇宙）を設計できるようになる。

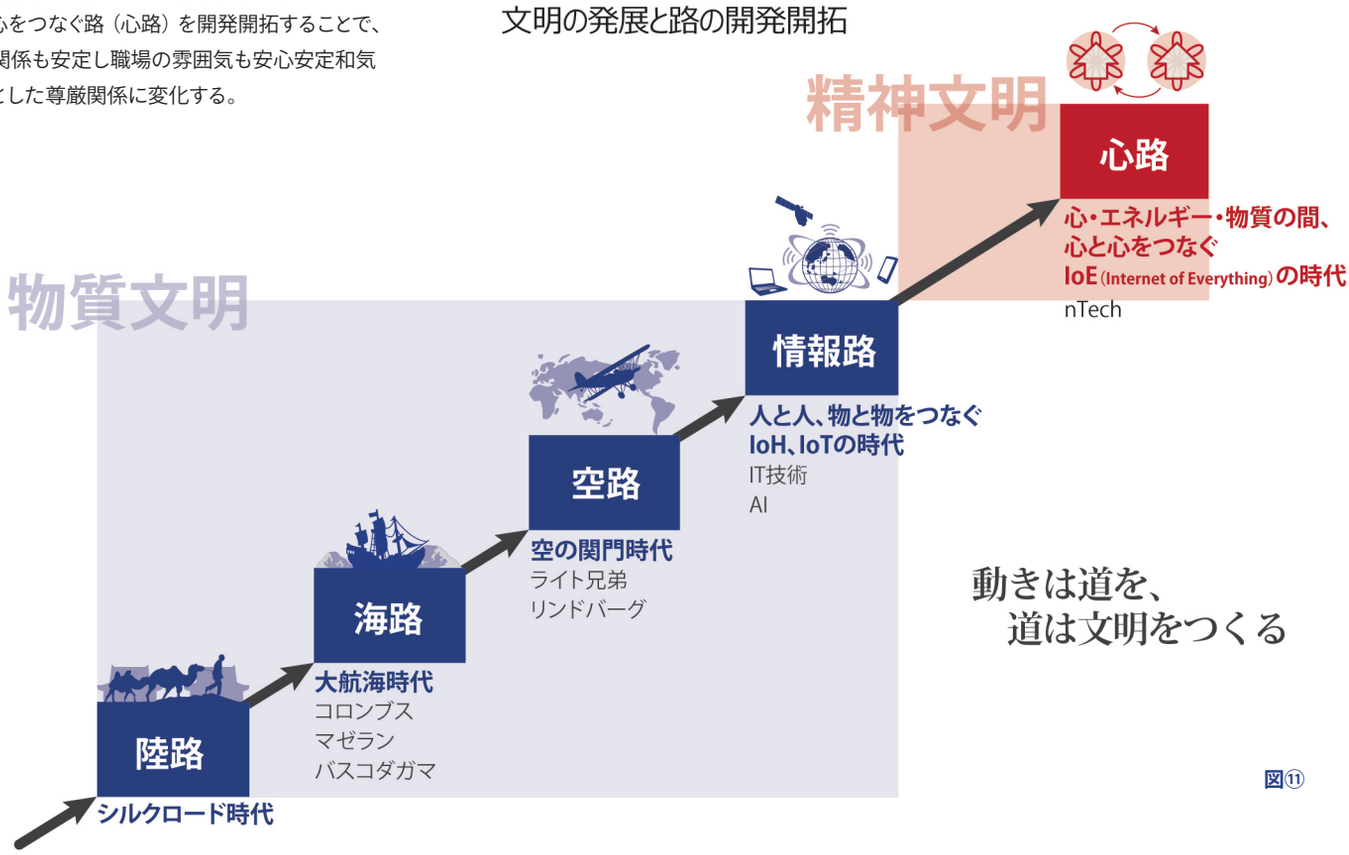
心の半導体を活用することでその産業に携わるすべての人の心が安定し、無限大のアイデア・自信感が爆発し、クリエイティヴ能力やイノベーション能力が発揮され、発見発明の達人になる。心と心をつなぐ路（心路）を開発開拓することで、人間関係も安定し職場の雰囲気も安心安定和気藹々とした尊厳関係に変化する。

ポストコロナ時代が願う商品・職業・産業・雇用の変化




図⑩

文明の発展と路の開発開拓




図⑪

### ③持続可能な平和産業

時間・空間・存在・エネルギーを生み出す究極のメタ素材は、どこにでも無限大溢れている。すべてつながっている一つの動きであるため奪うことも奪われることもない。使えば使うほどどんどん活性化される完璧な平和産業である。心の半導体を活用する認識産業は持続的に進化発展可能であり、SDGs（持続可能な開発目標）も達成可能になる。このメタレベルの新素材発見により世界規模の需要の爆発と雇用創出が生まれ、コロナと AI が生み出す世界的な雇用危機を解決する。

### ④心路を開発開拓する産業

文明の発展は新しい路の開発開拓であった。シルクロードのような陸路が開拓されることでさまざまな物品や文化が交易され、生活様式を拡張させ仕事や雇用も拡大した。大航海時代には海路の開拓を、ライト兄弟やリンドバーグによる空路の開拓や IT 技術による情報路の開拓など、新しい路を開発開拓することで物質文明を発展させてきた。（図⑪）

心の時代の路の開発開拓は、脳のウイルスを完全に統制する心路の開拓である。

これはあらゆる時空間の障壁を超え世界中の人と人の間をつないだ IoH（Internet of Human）、物と物の間をつなげる事物インターネット IoT（Internet of Things）の次に到来する、心・エネルギー・物質の間をつなぐ IoE（Internet of Everything）である。それぞれの脳の観点に閉ざされていた心と心を繋ぐ心路の開発開拓は、77 億全人類の集団の悟りであり、尊厳化への道である。

### ⑤究極の結集と生産

結集と生産性を極大化する鍵は組織のイノベーションである。

それぞれの観点に固定され認識していた物質文明は共通土台を持つことができなかった。その根本原因である認識構造の問題が解明できなかったため、組織のイノベーションを起こすことができず製造技術のイノベーションを繰り返した。物商品の生産はいつか壊れることを大前提とした生産であったため無駄が多く自然環境も破壊した。その結果、組織のコピーシステムが発達していない。

認識構造の変化に根本からアプローチする認識経済に移行することで組織のイノベーションが可能になり、企業が完全集団としてフラクタルする。携わる一人ひとりがいつもやる気・アイデア・自信感に溢れ、破壊を前提としないため持続可能な結集と生産が可能になる。

### ⑥３つのコロナを解決するオールクリーン戦略

生命を破壊する体のコロナと生活を破壊する経済のコロナ、尊厳を破壊する心のコロナを同時に解決するオールクリーン戦略。（図⑫）

**１）体のコロナ**

心の半導体の仕組みを用いて生活圏の中に新型コロナウイルスがない状態をつくり体のコロナを解決する。

**２）経済のコロナ**

メタ素材の開発による経済と雇用の活性化により持続可能な社会をつくることで経済のコロナを解決する。

**３）心のコロナ**

誰もが今ここ心の不安・恐怖から自由になる新しい教育を世界基軸教育として提供することで心のコロナを解決する。

このように認識構造と社会構造の変革による英雄産業は、今後起こりうるどんな危機や困難にも負けない人類の価値と体勢をつくります。

図⑫

## 両翼を得た人類に求められる地球市民としての歩み

ここまで、Dignity2.0、世界基軸教育、英雄産業で開闢する新たな地球文明の方途についてお話ししましたが、最終的には、私たち一人ひとりの毎瞬の選択が重要です。その選択に自らをどう思うのかが変わり、行動が変わり、社会が変わり、未来を具現化することができます。目に見えない翼（心で観る深さの成功）を持った両翼で、今こそ人類が共存共栄に向かって羽ばたくときなのです。

### 突入するHyper Reality社会

人間は、出会いの量と質を高めるために、車や飛行機などのあらゆる移動手段を開発し、続いて 4G、5G、6G と通信手段を開発、インターネットやモバイルの接続手段を開発して、膨大な出会いの量と質を開拓してきました。さらにコロナパンデミックは、人類を猛スピードで接続革命に誘導しています。オフライン（現実空間）での 3 次元の出会いの不足感を補うためにオンラインの 2 次元の出会いの場が生まれましたが、3 次元よりも低い次元である 2 次元ではリアリティに欠けます。それをさらに補うがごとく 3 次元の仮想空間が登場しました。それが現在話題となっている AR や VR を活用したアバターによるゲーム感覚の「メタバース」への接続です。このように急速なデジタル化・デジタル経済へ突入する、ハイパー・リアリティ社会が加速しています。

映画「レディ・プレイヤー・ワン」（スティーブン・スピルバーグ監督作品）では、その世界観が描かれていますが、ハイパー・リアリティ社会の発展の裏側には、深刻な、現実・自然・人間そのものに対する愛情、優しさの欠如が潜んでいます。

ただでさえ、現代のインターネット空間では、いじめや炎上が多発しさまざまな社会問題を生み出しています。このままハイパー・リアリティ社会へ突入するとすれば、果たして人類は、この現実に戻ることはできるのでしょうか。デジタル経済の発展によりアナログ経済に戻れなくなるという、まさしくユヴァル・ノア・ハラリ氏が言及している人間の無用者階級化を、より強烈に激化させる可能性があります。

### Hyper RealityからDeep Realityへ

現実の放棄・逃避しを背景とした利便・快楽・娯楽を追求するためのデジタルの発展ではなく、改めて現実そのものをどう観るのかが問われています。Dinity2.0 では、目なし見る、耳なし聞く、手なし触る、足なし歩く、脳なし生きる「デジタル哲学の具現化」によって、すべての人が聖人化し、今ここの現実に対する神秘神聖な感覚を享受し、〞今ここ〞こそが「ゲーム感覚」「アバター感覚」となる源泉動きに接続した Deep Reality の重要性を訴えています。

### 尊厳を活用する真のデジタル化こそ日本の使命

脳で接続する時代から、心で接続する時代へ。これからの時代は、尊厳機能を発揮させられるシステムを持っている組織でなければ太刀打ちできない時代へと突入します。これまでの軍事経済の延長線上に描かれる盲信的なデジタル経済ではなく、認識経済・尊厳経済を土台に、デジタル経済・アナログ経済も同時に発展させていく筋道こそが何より大事なロードマップではないでしょうか。この日本でもデジタル庁が新設されましたが、文字通り「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を具現化するためには何よりもデジタル哲学が必要であり、そのモデルをこの日本から生み出していくことが世界への希望の発信、おもてなしの精神の発信となります。世界基軸教育は、歴史や神などに依存した形態の教育ではなく、人類普遍の教育です。だからこそ希望であり、世界連邦政府を樹立することができる根源の開発に成功していると言えるのです。

## パーソナル・ユニバース、そしてモルティングバースの時代へ

デジタル哲学の活用により、源泉動きだけがある宇宙の外への接続が可能になることで、宇宙全体をコンピュータとして捉えることができます。これは、パーソナル・コンピュータ（PC）の時代からパーソナル・ユニバース（PU）の時代への移行を示しています。宇宙コンピュータを自由自在に統制できる PU 感覚を持ち、心の半導体を活用し、今ここが一人一人の認識画面、認識宇宙のアバター感覚で楽しめる世界である「モルティングバース」に接続し、デジタルもアナログも無限に楽しむことができる教育こそ本来の IT、そして、世界基軸教育、英雄産業の果たす役割でもあります。

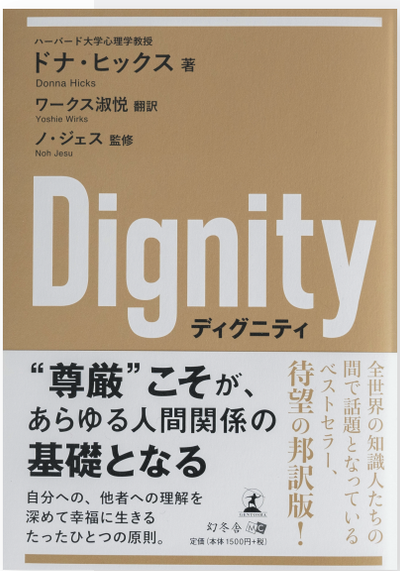
コロナパンデミックが人類を SNS 空間・メタバース空間への移動を後押ししたのならば、77 億全人類を宇宙の外・時間の外・エネルギーの外に大移動させるワクワクパンデミックこそが、私たちが起こしていくべき偉大なムーブメントです。源泉動きである Deep Reality に接続したモルティングバースによって、メタバースを包越した道のりを皆さまとともに歩んでいけることを願っています。

これが Dignity2.0 の未来ビジョンであり、皆さまへの約束です。

26 年前に Noh Jesu が発見し、この日本で育まれた Dignity2.0- 自然・人類尊栄の基準点 - をともに具現化する地球市民としての誉れと使命を、少しでも享受することができたなら幸いです。

## 全世界の知識人たちの間で話題の ベストセラー邦訳版

### 理想的な人間関係を構築する方法を解説した「Dignityモデル」１０のエレメント




**生まれながらの権利であるはずの Dignity―― “尊厳”。**
**自らを、そして他者を傷つけ、傷つけあうようにできている、私たち人間。自分を愛し、人と幸福に生きるために必要なものとはなにか。進化心理学にヒントを得た新基軸の「Dignity モデル」で、理想的な人間関係を構築する方法を解説した、著者渾身の一冊。ノ・ジェス監修で初邦訳で登場。**

【著者プロフィール】ドナ・ヒックス Donna Hicks / ハーバード大学心理学教授、Weatherhead Center for International Affairs 所属。 Dignity（尊厳）と Dignity が関係性の中で果たす役割について、初めて言語体系化した第一人者。英国 BBC の「真実と向き合う」と題するテレビ放映シリーズで、ノーベル平和賞受賞者であるツツ大司教と共同でファシリテーターを担うなど、国際紛争解決の現場において、世界各地の対立関係にある共同体間の対話のファシリテーターを 20 年以上に渡り務める。また数多くの企業や組織には、自らが考案した「Dignity モデル」を適用した実践的コンサルティングも実施。本書では、Delta Kappa Gamma Society（1929 年に創設され、北米、欧州、南米、日本で優れた女性教育者を顕彰している協会）の 2012 年教育者賞を受賞。現在ハーバード大学やコロンビア大学をはじめ、世界中で Dignity を活用した対立解消法を学ぶコースの教鞭に立ち、Dignity の役割やリーダーシップに関するトレーニングやセミナーを世界中で展開中。

**Dignity**
ハーバード大学心理学教授 ドナ・ヒックス 著
ワークス淑悦 翻訳
ノ・ジェス 監修
価格：1,650 円（税込）
出版社：幻冬舎

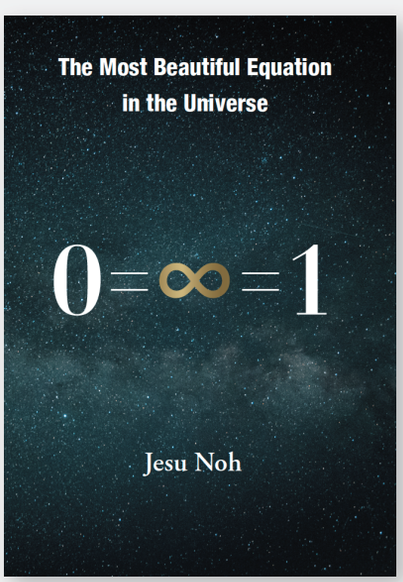
ノーベル平和賞受賞者・デズモンド・ツツ氏推薦 / 米国 Amazon レビュー 5 スター /Delta Kappa Gamma Society（1929 年に創設され、北米、欧州、南米、日本で優れた女性教育者を顕彰している協会）の 2012 年教育者賞受賞 / 英国 BBC 番組化・著者出演 / 米国国際ニュースマガジン Publishers Weekly に掲載

## 「科学技術を包越する未来技術」を活用した 未来産業がわかる！

### Amazon ランキングにて”美学”、”ノンフィクション哲学”、”数学”の各部門で第１位を獲得

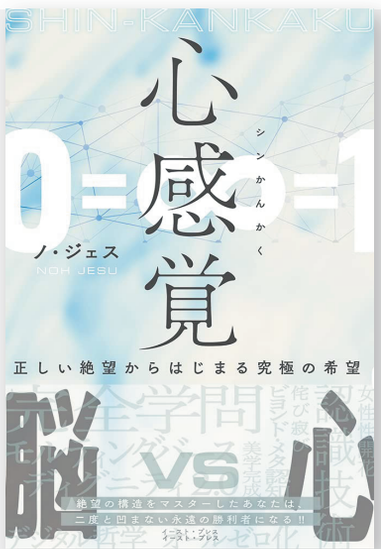
**本書は、日本語版をさらに進化させ、nTech の最新コンテンツが網羅された、全 400 ページを超えるボリュームでまさに待望の新作です。前半は AI 時代を生きる人間ひとり一人が幸せ・成功を獲得する鍵を、後半は時代の全体像と方向性、これからの人間が創る新しい組織・国・世界の未来像、そして、新時代をになう「科学技術を包越する未来技術」を活用した未来産業について、数学・物理学・哲学・美学などの様々な分野からの考察を通して紹介しています。**

版元となる Waterside Productions の Bill Gladstone 社長と、Noh Jesu は 2019 年カリフォルニア州で開催された IONS 国際カンファレンスにてパートナーシップを組み、本プロジェクトを遂行させてきました。Waterside Productions は、1982 年に設立され Amazon で 1000 タイトル以上のベストセラーを出版しています。これまで数千タイトルを排出し、特にノンフィクションを専門とし、強力な外国人著者部門を保有しています。40 以上の言語で出版し数千万ドルを生み出した実績のある世界的な出版社です。




**The Most Beautiful Equation in the Universe 0=∞=1**
Noh Jesu 著
出版社：Waterside Productions

人類史上初めて明かされる「脳の支配」から脱出し「心感覚」を手に入れる唯一無二のメソッド




## Amazon ランキング・全国書店でランキング1位※を獲得！

**0= ∞= 1という宇宙最大の大発見をし完全学問を確立した令和の賢人ノジェス先生の著書。哲学的に「正しい絶望」と出会うことで「究極の希望」に出会う。人類史上初めて明かされる「脳の支配」から脱出し「心感覚」を手に入れる唯一無二のメソッドが今明かされる。**
**人類史において、初めて明かされる絶望の秘密。脳の外に脱出し、心感覚を得るための唯一の書。**

26年前、著者が発見した宇宙のロゴス 0= ∞= 1と、そこから確立した完全学問・nTechという究極のコンテンツからすべてを紐解いた本書は、ポストコロナ時代の羅針盤となるでしょう。700万年間、誰も突破できなかった脱出不可能ゲームを、人類まとめて脱出させるための究極の人生ゲーム攻略本。
こんな時代だからこそ一縷の望みを見出したいあなたへのメッセージ。それは「正しく絶望」することです。これまでのようにただ希望に走っても、迷い込んでしまった「脱出不可能ゲーム」からは脱出できません。本書では、これまで誰も語らなかった「絶望の秘密」を、さまざまな事例を交えながら存分にお伝えしています。

### 心感覚[シンかんかく]

Noh Jesu 著
価格：1,760円
出版社：イースト・プレス

有志によるコミュニティが発足されるなど「心感覚読書会」が定期的に開催され、心感覚公認アンバサダーが多数誕生! 哲学ファン界隈で人気書籍となりました。まだまだ続く心感覚ブームに参加しよう！　HP: https://www.noh-jesu.com/shinkankaku/

## 日本から世界を再生する最終解答
## イースト・プレス社から待望の第二弾が2022年10月7日発刊

**最新刊**

人類史に刻まれる「巨大な嘘」を解き明かす！

**「初めに巨大な嘘を必要とする事件があった」**
**いきなり何のことかさっぱり分からない!と本を閉じるのはちょっと待ってください。**
**この言葉は、「新時代のバイブル」の冒頭を飾るに相応しい、とんでもない秘密が隠されたパスワードです。**

**「初めに言（ことば）があった」から始まるのは、世界一のベストセラー・聖書のなかのヨハネによる福音書ですが、本書を読み終える頃には「初めに巨大な嘘を必要とする事件があった」が「初めに言があった」のベールを取り、ホモ・サピエンスからホモ・ゼウス（Homo Jeus）へとシフトさせる重大なメッセージであることがお分かりいただけるでしょう。**

初めに無いものは終わりにもありません。パスワード無しにはコンピューターゲームにアクセスできないように、私たちは「人間ゲーム」の要である「初めの事件」の解明をなおざりにし、そのツケが今、回ってきています。
長期化するロシアによる軍事侵攻、第3次世界大戦への発展の恐れ、エネルギー戦争やグローバルな食料危機、約1500万人余りの命を奪ったコロナパンデミック、地球環境破壊による2050年人類滅亡の危機、AI（人工知能）の出現と2045年のシンギュラリティによる人間の尊厳性破壊、さらに「日本終了」と宣告されるほど瀕死の日本経済や超格差資本主義経済など、“人類文明のバブル”がいつ弾けてもおかしくない現実に目を覆いたくなるかもしれません。でも安心してください。突破口は至ってシンプルです。

「誰もが、初めの事件を分からなかった」このことに気づいて第一ボタンを掛けなおすこと。ただそれだけです。初めの事件は、宇宙ビッグバンが起こる前、時間・空間・存在・エネルギーが生まれる前。その事件と無関係なものは、宇宙空間にはひとつもありません。宇宙自然の現象、歴史文明の現象、時代の現象、国際紛争の現象、経済の現象、人間関係などの意識現象や心理現象まで、なにひとつ取りこぼさずスッキリ謎を解き明かす秘密のカギが初めの事件なのです。日本人なら誰もが知っているわらべうた『かごめかごめ』に「夜明けの晩」というフレーズがあります。初めの事件を解き明かし、新生ホモ・サピエンスに生まれ変わる夜明けの晩は、まさに“今”。その主人公は日本の皆さんです。

**本書では、沈みゆく日本経済と資本主義経済を題材に、不死鳥の如く羽ばたく日本と人類のロードマップをお伝えしていきます。**
【本書より　（抜粋）】

### Personal Universe　パーソナルユニバース 心半導体への進化

ノ・ジェス著
価格：1,760円（税込）
出版社：イースト・プレス

# Dignity2.0国際カンファレンス2022 賛同者一覧

| | |
|---|---|
| 安藤　暢英 | 株式会社 Undiet 代表取締役 |
| 飯塚　優子 | 「ぷにの家」代表　染色家 |
| 池川　明 | 産婦人科医 池川クリニック院長 |
| 伊藤　玲 | 有限会社ウィル みかん訪問看護ステーション取締役 |
| 稲垣　沙織 | 粋な女子道創始者 / 株式会社 Thanks labo 代表取締役 |
| 今井　カツノリ | 株式会社クラスデザイン　代表取締役　一級建築士 |
| 植松　努 | 株式会社植松電機　代表取締役 / 株式会社カムイスペースワークス　代表取締役<br>NPO 法人北海道宇宙科学技術創成センター（HISTIC）　理事 |
| 内橋　未奈 | Le Lien あじさい 代表 ｜ お菓子販売・お菓子教室 |
| 梅花 | スピリチュアリスト |
| 大石　真司 | NPO 法人こどもと農がつながる給食だんだん代表理事 |
| 大泉　太 | 代表取締役　/ 株式会社バントック |
| 尾崎　尚人 | カナダ政府公認移民コンサルタント |
| 大山　葎子 | 株式会社 La Victoire 代表取締役 |
| えのもと　かずき | アンティーク絵本作家 |
| 小笠原　えりこ | 和装コンサルタント |
| 岡田　耕治 | 代表取締役社長 / 日本テクノロジーソリューション株式会社 |
| 沖田　一希 | 株式会社 HRD 代表取締役 予備校講師（東進、DES）、歯科医師・博士 ( 歯学 ) |
| 柏原　克子 | 八晃電気株式会社 取締役 |
| 加藤　公彦 | KATO SHOTEN オーナー |
| 北山　佐和 | NPO 法人沖ヨガ協会中部連合会 NPO 沖ヨガ協会理事、中部連合会代表 |
| 木下　睦子 | Belieppy ~ メンタルフィットネス ~ / 心の学校 for Kids プロジェクトオーナー |
| 黒川　洋司 | 株式会社良心塾　塾長 |
| 黒瀧　道信 | デコラティブアートスタジオ 代表 |
| 国光　美佳 | 子どもの心と健康を守る会　代表 |
| 久保　篤志 | ダイキチレントオール株式会社 代表取締役 |
| 河本　弘 | 株式会社馬瀬構造設計事務所　専務取締役 |
| 小柳　亮 | 与祝グランドマスター講師 |
| 行徳　哲男 | 日本 BE 研究所 所長 |
| 小池　美香 | 愛の講演家・コンサルタント・美と健康アドバイザー |
| 小林　恵理 | E’ s class 塾長 |
| 佐々木　淑子 | 学校法人鶴岡学園 北海道文教大学附属高等学校 / 校長 |
| 澤田　親吾 | 小林豊子きもの学院 北海道 | 代表取締役 |
| 篠村　由美子 | 鍼灸師 / 心理カウンセラー |
| 柴田　三枝子 | 植物空間プロデュース　花活人 |
| 清水　博美 | Lokahi. Hiro | 個性心理学 SA&Freedom 支局 支局長 |
| 城　雄二 | 理学博士（物理化学）/ たんじゅん農法全国ネット世話人 |
| ジャルガルサイハン・ビルグーン | 理事長 / ソロゴドッグ・ジャルガルサイハン財団 |
| 末石　藏八 | 株式会社キシヤ　名誉会長 |
| 星蘭　真弓 | 合同会社　Re'Lien 代表 |
| 鈴木　有子 | 不登校サロン「あとりえ凪」代表 |
| 高橋　佐代子 | Growing Color 代表 色彩コンサルタント |
| 高橋　隆介 | カムイウェブ｜ SDGs+ マーケティングコンサルタント |
| 高山　悦一 | スタートアップデザイナーズ |
| 田島　優介 | 富士宮市立富士宮第三中学校　教諭 |
| 橘　メルロ | 札幌駅前占い館ほしよみ堂 / オーナー兼占い師 |
| 谷　圭祐 | 株式会社パーソナルアカデミー　代表取締役 |
| 塚原　祥子 | Familia Academy 主宰 |

| | |
|---|---|
| 月野　直美 | 感性哲学コンサルタント |
| 津嶋　克幸 | 結婚相談所はなふさ 代表 |
| 土谷　貞 | 建築家・暮らし研究家・コンサルタント・コラムニスト |
| 内司　和彦 | 内司治療院　院長 |
| 直井　景子 | 株式会社女農業道 |
| 西村　徹也 | 株式会社レスイズモア　代表取締役会長 |
| 中田　光治 | 株式会社エナジーサポート 代表取締役 |
| 橋間　瑤於子 | カフェバーさくら \| ラヴィア化粧品代理店 |
| 橋本　維知子 | 日本ボディポテンシャル協会代表 |
| 羽谷　朋晃 | エイチアールアイ合同会社　代表 |
| 波多野　輝未 | Brifu 株式会社 代表取締役 |
| 早川菜　緒子 | n.soin esthetic salon オーナー |
| 林　恭平 | 株式会社 F-standard 代表取締役 |
| 原島　真理 | ライフコーチ |
| 花瑠伽 | ファッションデザイナー / ソウタシエ作家 |
| 阪東　朝康 | 心理カウンセラー養成講座心塾塾長 /RTM メイントレーナー兼代表 / シンガーソグ ライター |
| 久本　和明 | 株式会社ワンピース　代表取締役 |
| 福田　美智江 | MCA 達成＆成功コーチング　代表 |
| 福田　純子 | ㈱ one スマイル代表取締役・新易学 / 運命好転学創始者 文化団体 笑顔共和国大統領 |
| 福本　ゆめ | 二胡奏者 /YUME MUSIC OFFICE 夢の音 |
| 福本　理恵 | 最高情熱責任者　/ 株式会社 SPACE |
| 藤城　まどか | 世界をもっと良くする株式会社 取締役・教育事業部長 |
| 藤原　祥孝 | 藤原公認会計士事務所 公認会計士・税理士・行政書士 |
| 星澤　幸子 | 星澤クッキングスタジオ・星澤フードサービス主宰 |
| 穂浪　高士 | 穂浪社会保険労務士事務所代表 |
| 前川　琢也 | ノースパーク株式会社 代表取締役 |
| 松島　眞一 | 発達キッズ協会　代表理事 |
| 真辺　多佳子 | 結婚相談 First bite ファーストバイト　代表 |
| 三浦　梓 | 駐妻キャリア net 代表 / 日経 xwoman アンバサダー |
| 三浦　月 | ( 株 )D.realize ブランディング事業部代表 / 自分ブランドの専門家 |
| 三澤　龍子 | 美容室桜井 会長 |
| ミッシェル　品川 | こんまり ® メソッドビジネスコーチ 日米認定片づけコンサル |
| 宮田　博文 | 株式会社宮田運輸　代表取締役社長 |
| 郵井　康祐 | 株式会社住機トータルサービス 代表取締役 |
| 森　由佳子 | 一般社団法人ホリスティックケア協会 |
| 森川　誠榮 | 一般社団法人 国際オーシャンリハビリテーション協会 代表理事 |
| 矢口　雅夫 | 札幌豊平倫理法人会 / 会長 |
| 山口　徳子 | ㈱ NORIKO　de Art |
| 山下 大祐 | 株式会社ヴィマイル 代表取締役 |
| 山崎　拓巳 | 有限会社　たく　代表取締役 / 夢実現プロデューサー |
| 柳　利英 | ワクワクデザイナー ダリル　ひとりひとりのワクワクを大切に育んでいく |
| リヒター　恵子 | クローバー Life アートオンラインスクール代表 / 子供を守る電磁波対策・多文化で育った子供 (TCK) の親のコミュニティ主宰 |

【敬称略】

※すべての賛同者様は HP で掲載させていただいております。

# ABOUT US

出演者やイベントに関するお問合せや、ご参加の感想はメールまたは公式サイトからお寄せください。

Dignity 2.0
International Conference
Dignity2.0 国際カンファレンス実行委員会

mail@dignity2.org

https://www.dignity2.org/

## Dignity2.0 国際カンファレンスコミュニティのご案内

**「Dignity2.0 国際カンファレンス」では世界基軸教育を深めていくコミュニティとして「Dignity2.0 connections」を立ち上げることになりました。Dignity2.0 国際カンファレンスのアーカイブの視聴ができたり、協賛企業様よりお得な情報を提供していただくことができます。ぜひ、ご参加を検討ください。**

### 入会案内

< 入会費 >
・2022 年度のご購入済チケットがある方は追加 2000 円、未購入の方は、追加 25,000 円で入会いただけます。
・1 日券をご購入の方で 3 日分の視聴を希望される方は 3 日間通し +2000 円の差額 (8,300 円) で入会いただけます。
・無料ご招待として当カンファレンスにご参加いただいた方は、3 日分アーカイブを 15,000 円でご入会いただけます。
※お支払方法はお申込みの方へ別途メールにてご案内させていただきます。

### 会員特典

**1** **第 2 回「Dignity2.0 国際カンファレンス」のアーカイブ視聴**

< 視聴期限 > 次期カンファレンスの前日まで
< 視聴プログラム > 2022 年 10 月 8 日〜 10 日開催された各セッション（一部イベントは対象外）

**2** **Dignity2.0 国際カンファレンスよりお得な情報の提供**

### お申込み

お申込みは下記 URL の専用フォームから必要事項を明記の上お申込みください。
アーカイブ対象イベントは決定次第 HP ページ内にてご案内予定です。

https://www.dignity2.org/global/archiveapply/

本カンファレンス発起人より提供

Dignity 2.0 International Conference × Project J. 日本文明の挑戦

# Dignity2.0 国際カンファレンス現地会場ご参加の皆様を無料ご招待

**一人ひとりが所有している PU（personal・universe）を活用できる**
**技術、職業、ビジョンを共有するために、4 日間の特別プログラムを開設しました。**

**日本発の未来技術・未来産業と**
**ぜひ出会ってください**

## ～深い心の世界を産業化させる「認識技術・nTech ～

世界中でコロナパンデミックの影響が残る中、ロシアとウクライナの戦争が未だ続いています。その結果、石油やガスなどの値段が高等し、サプライチェーンを安定化させるさせるためにも産業の活性化が世界レベルで早急に求められています。そのためには大量のエネルギーが必要ですが、2050 年には地球に人間が住めなくなるほどの深刻な地球温暖化問題があるため、石油・石炭・天然ガスなどの使用を控え、再生エネルギーの使用が求められます。高コスト化によって物価は上昇、景気は沈滞というスタグフレーションの危機に直面しています。

この世界レベルのスタグフレーションは資本主義の絶望状態と恐れられていますが、日本にとって究極のチャンスとも言えます。日本には、日本人特有の深い心の世界を産業化させる技術「認識技術・nTech」が完成しています。この技術はコスト 0 の心のエネルギーを使い、温暖化問題や AI 普及による人間の尊厳の危機も同時に解決させる、今までにない 0 次産業、「和業」を生み出すのです。今までの人類が突破できなかった脳の観点の限界を突破しながら、人間一人ひとりが持つ最高の尊厳機能を活かし、一人ひとりが所有している PU（personal・universe）を活用できる技術、職業、ビジョンを共有するために、4 日間の特別プログラムを開設しました。

スタグフレーションを完全に治癒できる、日本発の未来技術・未来産業とぜひ出会ってください。

## こんな方におススメ

» **26 年間の nTech のエキスを NohJesu から受け取りたい!**

26 年間切磋琢磨の上開発してきた表現のシャワーを浴び、人生のニュースタートを共に創ります。

» **AI が真似できない最高の職業・技術を手に入れたい!**

科学技術の次の未来技術とは何かを、明確に認識することができます。

» **自分の考え感情言葉行動を 100% 統制する技術を得たい!**

nTech を習得する事で、相対比較・自己否定・他人否定ができなくなり、無限のアイディア・やる気・柔らかい発想力が手に入ります。

» **日本人として今の時代に生まれた理由、日本の可能性を知りたい!**

コロナパンデミック以降、時代がどう変わっていくのか。日本文明の特徴と、日本文明の時代ミッションがわかります。

## お申込みはこちら

**0 次産業” 和業の時代 "Switch on !プログラム**

**開催日：2022 年 11 月 10 日 ( 木 ) ～ 13 日 ( 日 )**
**時間：9 時～ 17 時　※途中休憩を含みます。**
**参加：オンライン開催**
**※今回は日本語のみでの開催となります。**

2022 年度の Dignty2.0 国際カンファレンスに現地会場にお越しいただいた皆様を無料ご招待。

お申込みフォーム

**さらに詳しいご案内は HP へ：http://reiwaphilosophy.com/workshop/**

主催

Dignity 2.0
International Conference

後援

一般財団法人
令和教育財団
Reiwa Educational Foudation

協力

UE 植松電機

北海道神宮頓宮

協賛

solution coordinator
あなたと同じ視点で問題解決を提供する
日本テクノロジーソリューション株式会社

JeiGrid

Cleanpia Co.,Ltd.(since1999)
株式会社クリンピア

PBLS

JTS
株式会社住機トータルサービス

HAKKOU
八晃電気株式会社
トータルエレクトロニクスエンジニアリング

iJET アイジェット
オリジナル販促・グッズ製作の専門店
www.ijet-nobori.co.jp

DignityX
SINCE 2021 OSAKA

ソツタク

nClinic

縦巻き横巻きの法則

nTech Online Univ.

Next Renaissance
地球市民会議

NR Japan

Project J
真の女性性を開花する
日本文明の挑戦

NR出版

株式会社キシヤ名誉会長　伊藤 玲　様　森 貴司　様
末石 藏八様

https://www.dignity2.org/